

庄川水系の流域及び河川の概要 (案)

平成 19 年 3 月 7 日
国土交通省河川局

目 次

第1章 流域の自然状況	1
1-1 流域及び河川の概要	1
1-2 地 形	3
1-3 地 質	4
1-4 気候・気象	5
第2章 流域及び河川の自然環境	6
2-1 流域の自然環境	6
2-2 河川及びその周辺の自然環境	7
2-3 特徴的な河川景観や文化財等	22
2-4 庄川流域及び氾濫域の歴史・文化・観光施設等	29
2-5 庄川扇状地の湧水	32
2-6 自然公園等の指定状況	34
第3章 流域の社会状況	35
3-1 土地利用	35
3-2 人口	36
3-3 産業と経済	38
3-4 交 通	40
第4章 水害と治水事業の概要	41
4-1 既往洪水の概要	41
4-2 治水事業の沿革	45
第5章 水利用の現状	48
5-1 水利用の現状	48
5-2 渇水被害の概要	51
第6章 河川の流況と水質	52
6-1 河川流況	52
6-2 河川水質	54
第7章 河川空間の利用状況	56
7-1 河川敷の利用状況	56
7-2 河川の利用状況	59
第8章 河道特性	62
8-1 河道の特性	62
第9章 河川管理の現状	64
9-1 河川管理区間	64
9-2 河川管理施設	65
9-3 水防体制	66
9-4 危機管理の取り組み	68
9-5 地域との連携	72

第 1 章 流域の自然状況

1－1 流域及び河川の概要

庄川は、岐阜県飛騨地方、富山県西部地域に位置し、その源を岐阜県高山市烏帽子岳（標高 1,625m）に発し、尾上郷川、大白川等の支川を合わせ、山間部を北流し富山県に入り、境川、利賀川を合流し、砺波平野・射水平野を形成する扇状地に出て北流し、富山市西部を経て日本海に注ぐ、幹川流路延長 115 km、流域面積 1,189km²の一級河川である。

その流域は岐阜及び富山両県の 7 市 1 村からなり、流域の土地利用は、山地が約 93%、水田や畑地等の農地が約 6%、宅地等の市街地が約 1%となっている。また、上流部には世界遺産に指定された、白川郷や五箇山菅沼・五箇山相倉合掌造り集落、下流部の庄川により形成された扇状地には、富山県第二の都市である高岡市があり、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。

さらに、流域内は、白山国立公園、白木水無県立自然公園、五箇山県立自然公園、奥長良川県立自然公園、八乙女山閑乗寺県定公園、庄川峡県定公園、夢の平県定公園、増山城県定公園に指定される等の豊かな自然を有するとともに、水質は良好で、砺波平野・射水平野を潤し、県内一の穀倉地帯を築き上げているとともに、上流部では御母衣ダムをはじめとする水力発電に利用されており、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

表 1-1 流域の諸元

項 目	諸 元	備 考	
幹川流路延長	115km		
流域面積	1,189km ²	山地等 93.2%、農地 5.7%、宅地等 1.1%	
流域内市町村	7 市 1 村	富山県 5 市	高岡市、射水市、砺波市、富山市、南砺市
		岐阜県 2 市 1 村	飛騨市、郡上市、白川村
流域内人口	約 2.8 万人	富山県 2.42 万人（86.6%） 岐阜県 0.38 万人（13.4%）	
支川数	47		



図 1-1 庄川流域図

庄川流域は、上流域の山地部と下流域の扇状地部に大別され、地質は主に安山岩、花崗岩、流紋岩からなる。上流域は、白山山系に一部第四紀層を含むが、大半は第三紀層が占めており、下流域では庄川の流送土砂により、砺波市庄川町^{あおしま}青島を扇頂とする庄川扇状地が形成されている。

河床勾配は河口部の感潮区間ではほぼ水平であるが、扇状地部で約 1/200、山地部で約 1/100 と我が国屈指の急流河川である。

また、流域は日本海型気候に属しており、上流域は平均年間降水量が約 3,200mm、下流域での平均年間降水量も約 2,300mm と多雨多雪地帯で、特に上流域は有数の豪雪地帯である。

庄川流域の林相はブナ、ナラ、マツ等の天然林がその大半を占めている。岐阜県では、広葉樹、富山県では針葉樹が多い。また、白山東斜面は崩壊地等の無林地帯が多く地被状態が悪い。

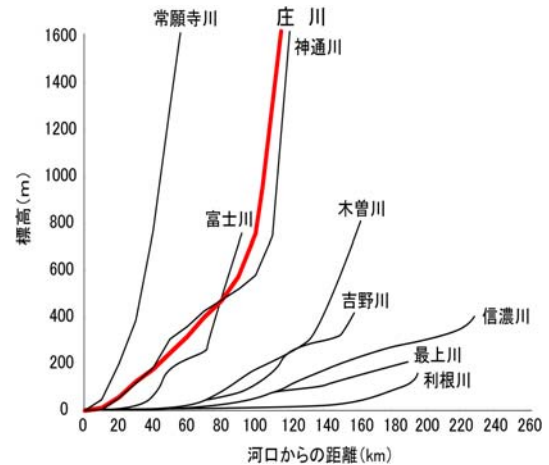


図 1-2 河床勾配図

庄川扇状地には、県全体の 16.3%の人口が集中する富山県第二の都市高岡市があり、昭和 39 年に県都富山市と共に新産業都市として指定されて以来、高岡市の伝統産業である高岡銅器の鑄物技術をもとにアルミニウム産業が発展し、北陸有数の工業地帯を形成し、富山市に並び富山県の産業・経済の中心地となっているほか、砺波・射水平野は県内有数の穀倉地帯となっている。また、J R 北陸本線、北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道、国道 8 号等の基幹交通施設に加え北陸新幹線が整備中であり、交通の要衝となっている。



図 1-3 小牧ダム付近から望む庄川扇状地

1-2 地 形

庄川流域の地形は、飛騨高原北縁山地、中部丘陵山地を含む南部山地及び砺波平野、射水平野を含む呉西平野からなっている。

庄川流域は約 93% が山地に占められ、平地は 5% 程度である。上流山間部では深い溪谷にきざまれ、ところどころで崩壊地形がみられる。また、庄川やその支川沿いには小規模な河岸段丘が点在しており、この段丘を利用して五箇山、白川郷などの集落が開けている。庄川が平野部に出るのは砺波市庄川町青島のあたりで、地形的にはここを頂点とする広大な扇状地が広がる。庄川扇状地の標高は扇頂部において約 100m で、扇端には三角州が広がり、その末端は小矢部川に侵食された段丘となっている。

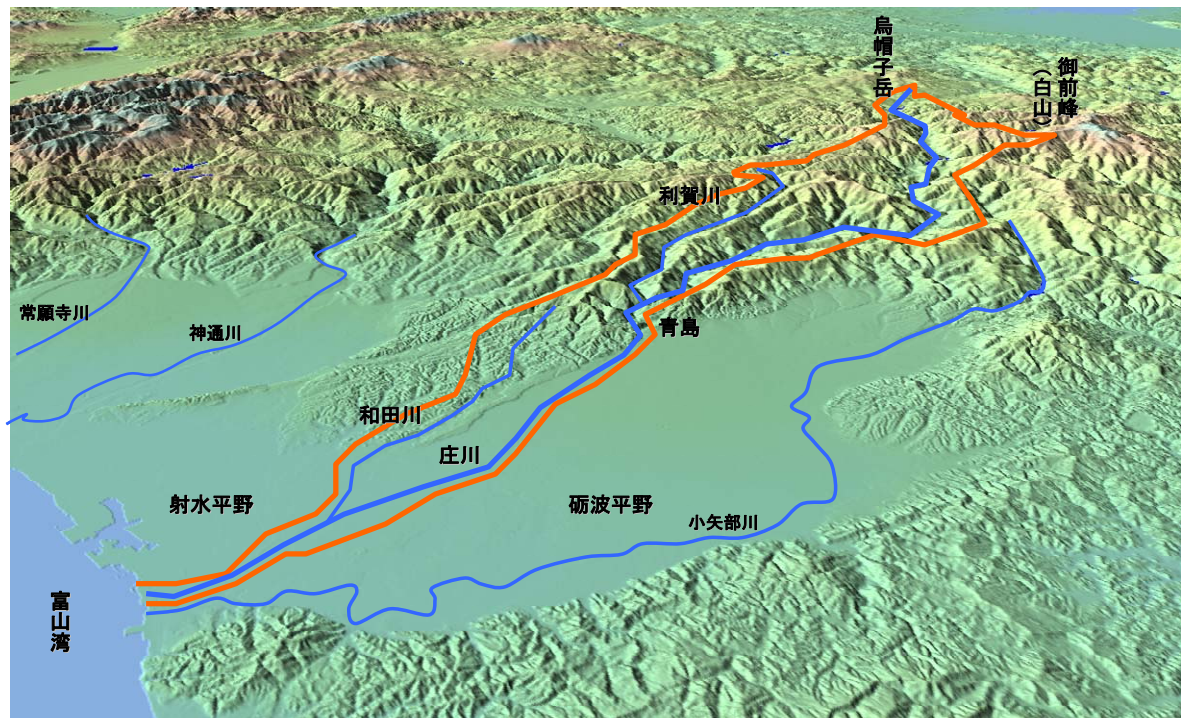


図 1-4 庄川流域の地形

1-3 地 質

庄川の源流のある岐阜県高山市付近は新第三紀安山岩類に占められ、上流部の支川では尾上郷川が中世期安山岩類を、また、六厩川が中世期石英斑岩山地を流れている。五箇山地方の小規模な段丘は新第三紀花崗岩、石英斑岩及び流紋岩が侵食をうけて形成したものである。下梨しもなしより下流の溪谷は新第三紀花崗岩、新第三紀安山岩および火山砕屑岩地帯となり、さらに小牧付近より下流は完新世の流紋岩と火山砕屑岩地帯となる。

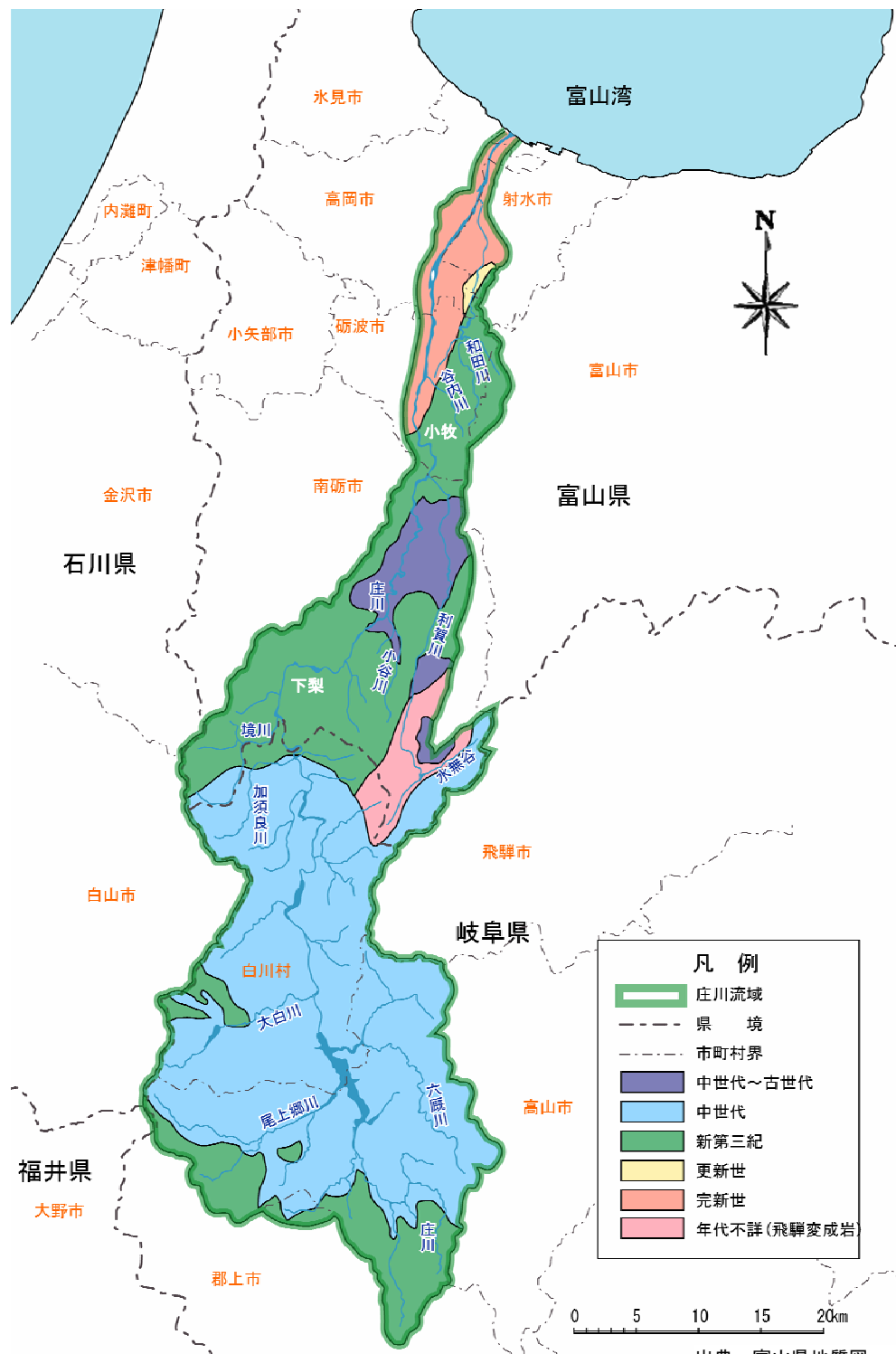


図 1-5 庄川地質分類図

出典：富山県地質図
岐阜県地質鉱山図

1-4 気候・気象

高岡市の年降水量は約 2,300 mm（伏木観測所：平成 7 年～平成 16 年の 10 ヶ年平均值）であり、この多くは冬期の降雪によるものである。また、上流部の高山市では夏に降雨が集中し易く、年間降水量も約 3,200 mm（御母衣観測所：平成 7 年～平成 16 年の 10 ヶ年平均值）となっている。降水量の分布は下流の平野部に向かって少なくなる。

気温は、上流域の六所では「夏冷涼・冬厳寒」で、年平均気温は 7.0℃と低い。一方、下流域の高岡市は、年較差の大きい日本海型気候であり、年平均気温 13.7℃に対し、8 月の平均気温は 26.3℃で夏の暑さは厳しい。

積雪については、上流山岳部では 2m を越え、下流平野部でも 0.5～1m に達する。特に、上流部の五箇山地方は豪雪地帯としても知られ、11 月下旬に降りはじめた雪は、最深時 3m～4m にも達し、例年、雪の消えるのは 5 月下旬である。

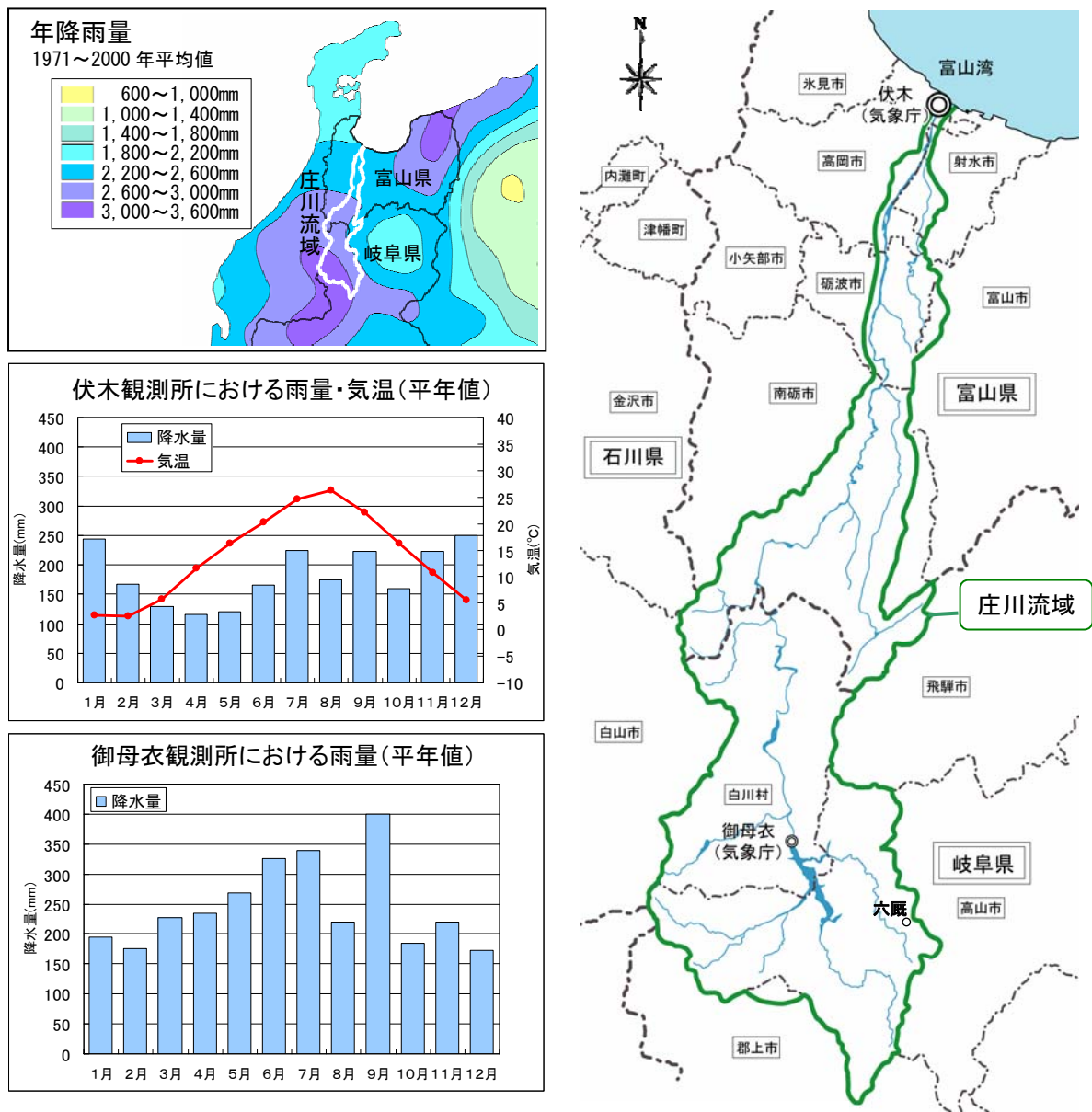


図 1-6 庄川流域の年平均気温・降水量

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

庄川流域は、富山県と岐阜県の2県にまたがり、流域の約93%が山地となっている。その自然環境の特性により上流部、中流部、下流部の3区分に区分することができる。

2-1-1 上流部[源流^{みほろ}～御母衣ダム]

上流分部は、白山国立公園などが存在し、人為的な開発を抑制し現状の自然環境の維持に努めており、ブナ・ナラ等の原生林による山林地がその多くを占めている。



源流部

2-1-2 中流部[御母衣ダム^{みほろ}～小牧ダム]

県定公園である「庄川峡」等の渓谷美が存在し、四季おりおりの彩りを映して流れる景勝空間である。



庄川峡

2-1-3 下流部[小牧ダム～河口]

庄川用水合ロダムから大門大橋までの区間では洪水のたびにその形状を変え、みお筋は網状となり、急流河川特有の様相を呈している。

大門大橋から河口までは高水敷と低水路が明確に区別できる。



河口付近

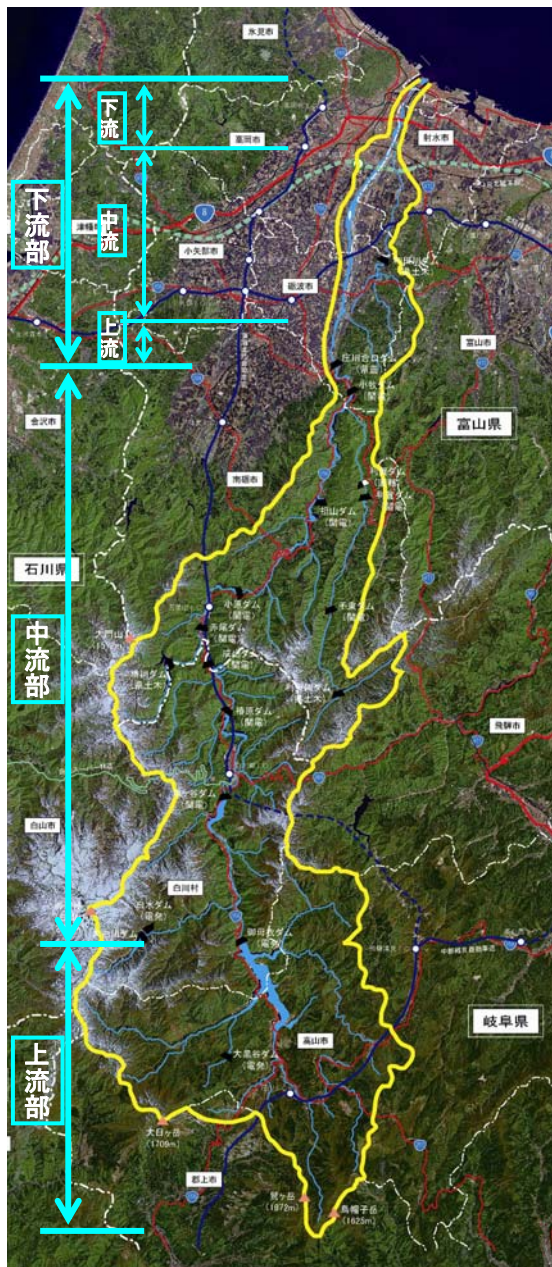


図2-1 上空から見た庄川流域

2-2 河川及びその周辺の自然環境

2-2-1 上流部（源流～御母衣^{みぼろ}ダム）

庄川の上流部は、ブナの自然林が広い面積を占めており、山頂付近には亜高山植生が見られる。支川沿いには（ジュウモンジシダーサワグルミ群集などの）渓谷林が発達し、庄川周辺にはブナの二次林（ブナーミズナラ群落、ミズナラークリ群落）や植林地が広がっている。御母衣ダムより上流の河川沿いでは民家が見られ、耕作地や植林地、ブナの二次林（ミズナラークリ群落）などが入り組んでいる。



源流烏帽子岳

出典：飛騨荘川観光協会HP



御母衣ダムより源流付近を望む

2-2-2 中流部（御母衣ダム～小牧ダム）

中流部はスギ植林地が広い面積を占めており、部分的にブナの二次林が見られる。庄川沿いはブナの自然林や二次林、スギ植林地、水田などが入り組んで見られ、小原ダムより下流になると川沿いの低山地にはコナラ群落が見られるようになる。また、発電等の水利用が最も盛んな区間である。



①小牧ダム付近より上流を望む



②祖山ダムより上流を望む



③小原ダムより上流を望む



④赤尾ダムより上流を望む



⑤成出ダムより上流を望む



⑥椿原ダムより上流を望む



⑦鳩ヶ谷ダムより上流を望む



図 2-2 庄川流域の上流部

2-2-3 下流部（小牧ダム～河口）

（１）【上流区間（山付区間）】[18.6k～26.1k]

砺波大橋付近から雄神橋付近（18.6k～24.2k）までは早瀬や平瀬が連続している。雄神橋付近から庄川用水合口ダム（24.2k～26.1k）までは山付区間となっており、河道に岩が露出している。

植物では、河原草原にヨモギ、メドハギ、チガヤ、ススキ、トダシバなどが見られ、河畔林としてヌルデ、アカメガシワ、ハリエンジュが見られる。山付区間の岩盤が露出している環境には、水際の植生はあまり見られないが、河畔林は周囲の山と連続しており、サイカチ、アケボノソウ、ツメレンゲなどの富山県内では稀な植物が自生する。

鳥類では、中州などの砂礫地にはコチドリ、砂礫の河原に丈の低い草がまばらに生えるような環境にはイソシギが生息し、コサギ、キセキレイ、セグロキセキレイなどが採餌を行っている。山付区間では溪流性のカワセミ、カワガラス、キセキレイが見られ、ヤナギ高木林などにムクドリ、キジバト、ホオジロ、カワラヒワ、カウウなどが生息している。また、溪流の広葉樹林などに生息し、カエル、サンショウウオ、小型の魚類などを採餌するアカショウビンや、落葉広葉樹の高木林に好んで営巣し、主に昆虫を採餌するサンショウクイなども見られる。

魚類では、瀬には庄川用水合口ダムまで魚類の遡上を妨げる横断構造物がないため、アユなどの回遊魚が生息し、淡水魚ではヤマメやニジマスが生息している。また、淵には回遊性のカジカ、オオヨシノボリ、アユ、ウグイが生息している。

昆虫類では、河原草原にカワラバッタなどのバッタ類、チョウ類、ゴミムシ類が生息し、山付区間には山地溪流に生息するナガレトビケラ類も多く生息している。また、平瀬にはカゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類、ブユ、アミカなどが生息している。



舟戸橋より上流を望む



アケボノソウ

山間の湿性地などに生育するやや大型の越年草。植生遷移の進行にともなう生育地の環境変化や生育地自体の減少のほか、園芸目的の盗掘によって生育が脅かされている植物である。



サイカチ

樹高 20m 近くなる落葉高木。羽状複葉のなかでも偶数羽状複葉の本木はわずかしがなく、枝や幹の分岐した刺とともに本種の大きな特徴となっている。富山県内ではもともと個体数が少ない植物であったと考えられ、本地点のように群生している場所は特に重要である。



ツメレンゲ

日当たりのよい乾いた岩上などに生育する多肉の多年草。開花するとその株は枯れてしまう一稔性の植物であり、園芸目的で盗掘されることも多い。



イソシギ

頭上から背面、尾まで暗灰褐色で、顔から上胸部に黒褐色の斑がある。白い眉斑と暗灰褐色の過眼線を持つ。腹面は白色。飛翔時に白色の翼帯が目立つ。足は黄褐色で、後向の足指は極短い。嘴は黒色で、細長くしなやか。日本全国に分布し、北陸地方では夏鳥として渡来。



カワヨシノボリ

体長 7cm ほどの小型のハゼで、他のヨシノボリ類に似るが、胸鰭の鰭条数が 15～17 本と他のヨシノボリ類より少ない。静岡県・富山県以西の本州、四国、九州に分布し、富山県内では上市川以西の各河川の上・中流部に分布している。



ヤマメ

全長は 10cm～30cm で背部はわずかに緑色に帯びた黄褐色で、腹面は白い。体側に黒いパーマークが 7～10 個並ぶ。川幅のある比較的開けた最上流から中流上部までの淵、落ち込み、岩陰の凹み、大きな石のまわりなどに生息している。

(2)【中流区間】[7.0k～18.6k]

大門大橋付近から砺波大橋付近（7.0k～18.6k）までは網状の流れを形成しており早瀬や平瀬が連続するとともに、大門大橋付近から中田橋付近（7.0k～13.0k）の河道内には湧水箇所が認められる。

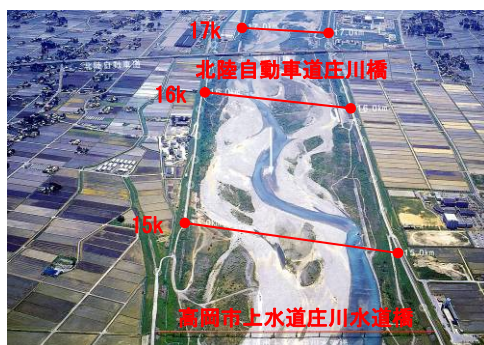
植物では、河原草原は常に河川が攪乱される環境で、アキグミをはじめ、カワラサイコ、カワラハハコなどの砂礫地を好む植物が生育している。湧水からなる池が存在する環境においては、周囲をヤナギの低木林やヨシに囲まれ、ミクリなどが生育する。また、河畔林にはヌルデ・アカメガシワ群落、オニグルミ群落が分布している。

鳥類では、砂礫地には上流部と同様にコチドリ、イソシギ、コサギ、キセキレイ、セグロキセキレイなどが生息しているほかに、林で繁殖を行い、湿地・川辺で昆虫、魚類、両生類を採餌するチュウサギや、湿地生態系の頂点に位置するチュウヒが生息している。

魚類では、早瀬はアユ、ウグイ、カジカ、オオヨシノボリなどが浮石を産卵・生息場とし、流れが穏やかで水深がある程度ある淵環境は、回遊魚のウグイ、ヨシノボリ、淡水魚ではギンブナが生息しているほか、稚魚の生息場、アユの休息の場などとしている。また、湧水からなる池や川と連続したワンドでは、トミヨ、イチモンジタナゴ、ギンブナ、モツゴが生息し、底質が砂泥質の環境にはドジョウなどが生息している。

底生生物では、湧水からなる池にモノアラガイやタナゴ類の産卵場となるイシガイなど二枚貝が生息している。

昆虫では、河原草原に上流部と同様にカワラバッタなどのバッタ類、チョウ類、ゴミムシ類が生息している。瀬にはカゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類が生息し、湧水環境の抽水植物や浮葉植物が豊富な水辺にはトンボ類、淵などの流れの緩やかな岸辺の水草などにはゲンゴロウが生息している。



8k 左岸付近湧水池



カワラサイコ

河原の砂礫地や海岸に生育する多年草。日当たりのよい半裸地状の環境を好む植物であり、河川改修などによる生育地の減少のほか、攪乱の頻度や程度の減少にともなう植生遷移の進行も個体数減少の原因となっている。



カンガレイ

河川、池、沼の水辺及び浅水中、休耕田などの水湿地に群生する多年草。桿は叢生して大きな株になり、断面は鋭三角形。



ミクリ

湖沼や河川、水路などに生育する抽水性の多年草。ナガエミクリのように流水中に生育することは少なく、河川や水路に生育する場合には、死水域や流れの緩やかな岸辺付近に限られる。



コチドリ

一番小さいチドリで、顔の黒い線模様と間を縁取る黄色いリング、胸の黒帯が特徴的。脚は黄色で、飛んだときに翼は何の線も出ない。日本には主に夏鳥として渡来し、西南日本では越冬するものもいる。川の中流から下流の砂礫河原、海岸の砂丘や埋め立て地などに営巣する。



チュウサギ

嘴は短めで、実長はコサギの方が長い。全長白色で、繁殖期には胸と肩羽に毛状の長い飾り羽を生じ、嘴は黒い。非繁殖期には飾り羽はなくなり、嘴は黄色で先端は褐色をしているものが多い。目先の裸出部は黄色、脚は黒い。平地の水田、休耕田、湿地、川辺などで採餌するが、流れの中にはほとんどでない。



チュウヒ

色彩の個体数が大きく、頭部は黒または黒褐色の縦斑があり、胸は灰白色で褐色の縦斑がある場合と、ほとんど無い場合がある。また、腰が白いものが多い。雨覆は黒または黒褐色。雌雄の形態差はあまりない。滑翔時に翼を滑翔V字に保つ。ヨシ原などの地上に営巣し、ヨシ原、草地、農耕地を滑翔して、小鳥、小動物を採餌する。



アカザ

全長は15cmほどの赤褐色をしたナマズ形の魚である。放射状に並ぶ4対の口ひげをもち、背びれにある棘に刺されると痛い。

水のきれいな河川の上流下部から中流域にかけて生息するが、仔稚魚は秋には大きな河川の下流に下る。

本州、四国、九州に分布するが、東北地方北部にはいない。富山県内では笹川、小川、角川、上市川、白岩川、神通川、庄川、小矢部川の各水系に分布している。



イチモンジタナゴ

国内に生息するタナゴ類の中ではタナゴに次いで体高が低い種である。側線鱗の前から6〜7枚目のうろこ上方付近に瞳大の暗緑色の斑点があり、それに連続して太く長い顕著な暗色縦条が尾鰭の基部付近まで走る。

淀川水系、紀ノ川水系、福井県三方湖、濃尾平野に分布し、最近では人為的な移植により分布を拡張している。富山県内では庄川のワンドのみで記録がある。



スナヤツメ

細長いウナギ型の体形をしているが、口は吸盤状であごがないので一見して区別出来る。全長は成魚で20cm未満で、目の後ろに7個の鰭孔がある。

北海道から九州中部までの日本各地に分布する。富山県内では、平野部から山裾にかけて広く分布する。生息地は、湧水・伏流水が見られる場所や水質の良好な場所に限定される。



アユ

縄張りをもった個体は全長は約18cm〜30cmになるが、縄張りをもたなかった個体はこれと同等か、やや小型である。

背側は青みがかったオリーブ色、腹側は銀白色のスマートな魚で、背鰭の後方に脂鰭がある。

河川に遡上したアユは、中流から上流域の大石や岩盤のある瀬に縄張りを形成して定着する。縄張りは平瀬や早瀬および淵の一部に形成する。



アユカケ

頭部が大きく、鰓蓋に鋭い棘を4本持つ。体色は環境に合わせるが、地色は灰色が基調で、体の背面に大きな黒斑を二つ持つ。最大で全長30cmほどになる。

神奈川県相模川、秋田県雄物川以南の本州、四国、九州に分布し、別名カマキリとも呼ぶ。富山県内では各河川の中・下流域に生息する。



トミヨ

標準体長が5cmほどの細長い小さな魚であるが、背中に9本内外、胸鰭に1対、腹鰭に1対、腹鰭に1本の棘をもつ。

北海道、日本海側では青森県、秋田県、新潟県、富山県、石川県、福井県、太平洋側では青森県に分布し、富山県内では黒部川扇状地と庄川扇状地の湧水の出る河川及び常願寺川、神通川周辺のごく限られた地域に記録がある。



アオヤンマ

腹長 44～55mm、後翅長 41～49mm。腹部第3節がくびれないやや大型のヤンマで、全身緑色をしている。
北海道から宮崎県、熊本県にかけて分布し、富山県内では21市町村(旧市町村区分)で記録はあるが、安定した産地は少ない。



ドブガイ（タガイ、ヌマガイ）

殻長 150mm になる大型二枚貝。殻は薄く、よくふくらみ殻皮は黒褐色。殻表には細かい成長線のみで、ほぼ平滑。内面は真珠光沢がある。歯がないことも大きな特徴。
北海道から九州に広く分布し、富山県内では平野部や丘陵の用水や池、大河川のワンドで生息が認められる。



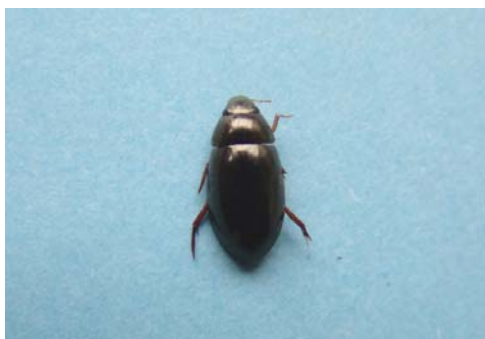
モノアラガイ

殻高 10～15mm の巻貝。殻は卵形で薄く、大層が大変大きく、殻口が広く開く。殻色は黄白色から茶褐色で、殻表に細かい成長脈がある。軸唇は強くねじれる。体色は黄土色で黒い斑紋があり、貝殻を通じてその斑紋が見える。
北海道から九州に広く分布しているが、近年各地で見られなくなった。富山県内では平野部、都市部とも生息地がある。



キベリマメゲンゴロウ

体長 6.5～8mm。体形は長楕円形でやや厚い。
北海道、本州、四国、九州に分布し、富山県内では、常願寺川、神通川、庄川、百瀬川などで確認されているが、局地的である。



ヒメガムシ

体長 9～11mm。全体に黒くて艶がある。
本州、四国、九州、沖縄に分布し、富山県内では、激減した水生昆虫のひとつで、他に比べ採取例は極めて少ない。



モンキマメゲンゴロウ

体長 6.5～8.7mm。体形は長楕円形でやや厚い。
北海道、本州、四国、九州に分布している。富山県内では朝日町、黒部市、富山市、南砺市などで確認されている。

（２）【下流区間（河口部）】〔河口～7.0k〕

射水市、高岡市の中心市街地を流れる下流区間・河口部は川幅が広く、低水路と高水敷が明確に区分でき、緩やかに流下する区間である。河口から高新大橋付近（0.0k～4.0k）までは大正元年竣工の新川開削部であり、高新大橋付近から大門大橋付近（4.0k～7.0k）まではワンド等の緩流域が入り込んでいる。

植物では、高新大橋付近（4.0k）上流の河道内には、ジャヤナギ・アカメヤナギ群落やカワヤナギ群落、ハンノキ群落等が分布しており、高新大橋付近（4.0k）下流の新川開削部の水際はヨシなどの背の高い抽水植物群落が生物生息空間の基盤をなしている。また、公園や耕作地等の利用が盛んな高水敷には、作物のほか、トダシバやチガヤなどの背の低い草が生育している。河口付近にはハマナスなどの海浜性の植物が生育しているほか、やや湿った氾濫原にはフジバカマや、日当たりのよい乾燥した環境にはエノコログサやチガヤに混ざってカワラサイコが生育する。

鳥類では、ヤナギの低木や藪にはササゴイが営巣しており、オオタカが休息に利用しているほか、河道内の樹木は、サギ類、カワウの集団営巣地として使用されている。砂礫地や高水敷の草地には中流部と同様にコチドリ、イソシギが生息しており、水際のヨシ原にはオオバンが草を積み上げて営巣している。河口の砂地の草や漂流物の間のくぼみにはシロチドリが営巣しており、シギ・チドリ類の営巣及び休息として利用しているほか、カモメ類の集団渡来地となっている。多様な魚類が生息する水面ではミサゴが採餌を行っており、淡水域の水面には甲殻類や底生昆虫などをもとめ、ホオジロやミコアイサなどが集まっている。

魚類では、淡水域には回遊性のヌマチチブ、ウグイ、アユが生息しており、ギンブナやオイカワなども生息している。また、淡水域と海水域が混ざり合う河口部は、回遊性のマルタウグイ、カジカ中卵型などに加え、シンジコハゼなどが見られる。

昆虫では、河畔林・河道内樹木にベニシジミなどのチョウ・ガ類、コウチュウ類、カメムシ類が生息し、草地にはバッタ類、コウチュウ類、カメムシ類のほか、コハンミョウ、ミヤマアカネが見られる。また、新川開削部の水際等に生育するヨシ群落にはマダラヤンマ、アオヤンマが生息している。河口付近にはエリザハンミョウ、ヒメナスゴミムシダマシなどの砂地環境を好む種や、海浜性のヒメサビキコリが生息している。

哺乳類では、耕作地などにネズミ類やタヌキ、ノウサギなどが見られる。





新川開削部 抽水植物繁茂状況



ハマナス

海岸の砂地に生育するバラ科の植物。
富山県では絶滅種とされており、庭園などで栽培されることから逸出した個体流れ着いた可能性があるが、生育する立地であることから、自生個体の可能性が高いと考えられる。



ハンノキ群落

樹高 20m 近くなる落葉高木。
サギ類、カワウの集団営巣地として利用されている。



フジバカマ

河原のやや湿った氾濫限や堤防などに生育する多年草。鑑賞価値が高く、「秋の七草」にもあげられている。乾燥化や帰化植物の侵入、植生の遷移の進行などによる生育地の変化などによる生育地自体の減少が個体数減少の要因となっている。



ヨシ

主に中・下流から河口域にかけての不安定帯の水際付近に生育する抽水性大型多年草。
水生植物の中では非常に競争力が強く、生育地の水深や土壌条件により、他の水生植物と共存して種々の植物群落を形成する。



オオタカ

白色の眉斑が顕著で、翼は幅広で短く、尾は長い。成鳥は、背面は青みがかった灰黒色で、下面は全体に白いが、翼にも黒色の細い横斑が一面にある。尾には黒色帯が4本ある。若鳥は褐色で、体の下面に黒褐色の縦斑がある。

山陰から近畿以北で繁殖する留鳥で、冬期には高地や寒地の個体は、低地や南に移動する。



オオバン

クイナ科の中では最も大きい。背以下の上面、翼、尾及び下面は灰黒色で、次列風切の先端が白い。嘴は白く、白色の額板がある。脚は暗い青緑色で、指にヒレがある。

北海道、本州、九州の一部で繁殖し、本州以南では留鳥、または冬鳥として分布する。



ササゴイ

顎を縮めて猫背型をしていることが多い。ゴイサギに比べるとやや小型で、嘴がはるかに細い。夏羽では黒い冠毛が目立つ。成鳥は頭上は黒色、背と雨覆いは青緑色の光沢のある黒褐色、風切りは黒褐色、下面は淡い紫灰色で、目と足は黄色である。夏鳥として渡来し、本州から九州までの各地の平地で繁殖。



ミサゴ

トビと同程度の大きさだが、尾の形や下面の白さで容易に区別がつく。オス、メスとも頭部を除き、上面は褐色で、下面は白っぽい。体色に性差はほとんど見られないが、成鳥のメスの胸部には、オスや幼鳥のものよりも太くて目立つ褐色の帯がある。北海道から九州、およびその周辺の小島に生息。秋には南へ渡る個体もいる。



カジカ中卵型

形態はカジカ（大卵型）に酷似し、胸鰭の鰭条数が14～16本（モード15本）であることで分けられるが、厳密には遺伝子の塩素配列で区別される。積丹半島以南の日本海側、九州北西部、瀬戸内海流入河川に分布し、富山県内では上市川、白岩川、常願寺川、神通川、庄川等に記録がある。



シンジコハゼ

全長7cmほどの小型のハゼで、ジュズカケハゼやピリングに酷似する。頭部感覚管開孔が2対あることで多種と区分されているが、0～4対まで様々な変異がある。秋田県、富山県、石川県、福井県、島根県宍道湖に分布し、富山県内では氷見市十二町湯、万尾川、仏生寺川、庄川、射水市等で記録がある。



ヌマチチブ

全長は約 15cm で頭が大きく、体がずんぐりしている。背鰭は 2 基あり、腹鰭は吸盤状で、体色は暗褐色で頭部には斑紋がある。

川の汽水域から中流域、汽水湖、ため池などの多様な場所に生息する。

成魚は死水域ないし緩流域に多いが、平瀬にも積極的に進入する。泥底のところにも生息するが、本来は岩や倒木、杭などの固い基底がある場所や礫底を好む。

北海道から九州まで広く分布する。



マルタウグイ

ウグイによく似ており、婚姻色の相違により区分される。

北海道、本州（富山湾、東京湾以北）の大きな河川に分布し、富山県内では黒部川、上市川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川等で記録がある。河口域から海域で生活し、春季に産卵のため遡上する。



コハンミョウ

体長 11～13mm で平地の砂質地にすみ、成虫、幼虫とも肉食性で幼虫は地面に穴を掘って潜み近づいた小昆虫を捕食する。

本州、四国、九州、沖縄に分布する。



ミヤマアカネ

幼虫は主に丘陵地や底山地の水田地帯や湿原の緩やかな流れに生息する。成虫は畦畔や流畦の草地などで生活し、未熟な個体でもあまり遠くへ移動することはない。

南千島から九州に分布する。



マダラヤンマ

幼虫は平地の挺水植物の群生する池沼に生息し、成虫は 8 月から 10 月にわたって出現する。

北海道から福井県にかけて分布する。

2-2-4 庄川における特定種

庄川における特定種を河川水辺の国勢調査結果等をもとに、レッドデータブック・レッドリスト（環境省）記載種、天然記念物指定種等の学術上または希少性の観点から抽出した。また、生態系の特徴を表す種についても抽出した。

表 2-1 庄川における特定種の選定基準一覧表

区分	文献名	所管管理者	年度	内容	選定対象 ◇内略号
法律・ 条例	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境庁	1992	絶滅のおそれのある野生動植物を指定し、保護、譲渡、輸出入等を規制	国内希少野生生物<絶滅> (対象：植物、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫類)
	文化財保護法、 文化財保護条例	文化庁 都道府県	1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物<国天> 都道府県指定天然記念物<県天>
	自然保護法	環境庁	1964	国立・国定公園の風致の重要な構成になっている高山植物その他これに類する植物を指定	国立/国定公園特別地域内指定植物<公園>
環境省版 レッド データ ブック	改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ーレッドデータブックー (汽水・淡水魚類、両生類、爬虫類、哺乳類、鳥類)	環境庁 環境省	2000 2002 2003	環境庁レッドリストの内容を再評価したもの	絶滅<EX>、野生絶滅<EW> 絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN> 絶滅危惧ⅠA類<CR> 絶滅危惧ⅠB類<EN> 絶滅危惧Ⅱ類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれのある地域個体群<LP>
	改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ーレッドデータブックー (植物Ⅰ・Ⅱ)	環境庁	2000	環境庁レッドリストの内容を再評価したもの	絶滅<EX>、野生絶滅<EW> 絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN> 絶滅危惧ⅠA類<CR> 絶滅危惧ⅠB類<EN> 絶滅危惧Ⅱ類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれのある地域個体群<LP>
環境省版 レッドリ スト	環境庁レッドリスト無脊椎動物 (昆虫類・陸産、淡水産貝類・クモ型類・多足類等・甲殻類等)	環境庁	2000	絶滅のおそれのある動物をIUCN(国際自然保護連合)が1994年に採択した新カテゴリーにより選定	絶滅<EX>、野生絶滅<EW> 絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN> 絶滅危惧ⅠA類<CR> 絶滅危惧ⅠB類<EN> 絶滅危惧Ⅱ類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれのある地域個体群<LP>
富山県版 レッド データ ブック	レッドデータブックとやま 富山県の絶滅のおそれのある野生生物	富山県	2002	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、軟体動物(淡水産・陸産貝類)シダ植物、種子植物を整理	絶滅種<絶滅> 絶滅危惧種<危惧> 危急種<危急> 希少種<希少> 情報不足<不足> 絶滅のおそれのある地域個体群<地域個体群>
その他	自然環境保全基礎調査 (すぐれた自然調査)	環境庁	1973	植物、野生動植物について希少性、固有性、特異性という視点で分布を調査	すぐれた自然調査対象種<自然>
	第2回自然環境保全基礎調査 (特定植物群落調査、動物分布調査、河川調査)	環境庁	1978	学術上重要な群落、保護を必要とする植物群落を選定	日本の重要な昆虫類<重要(昆)> 日本の重要な両生類・爬虫類<重要(両)>
	富山県自然環境指針	富山県	—	環境指針	富山県自然環境指数Ⅳ<評価Ⅳ> 富山県自然環境指数Ⅴ<評価Ⅴ>

表 2-2 庄川で確認された特定種等一覧表

生物	No.	科名	種名	主たる 選定理由	種の選定根拠								備考
					希少性		良好な環 境 自然環境 保全調査	生態系の特徴を表す種					
					環境庁 RDB	富山県 RDB		上位性	典型性	特殊性	移動性		
魚介類	1	アカザ	アカザ	希少性	危惧Ⅱ	危急						中～上流域砂礫底	
	2	コイ	アカヒレタビラ	希少性		危急				○		池・ワンド	
	3	コイ	イチモンジタナゴ	希少性	危惧ⅠB					○		池・ワンド	
	4	ウナギ	ウナギ	希少性		不足				○	○		
	5	カジカ	カジカ中卵型	希少性		希少			○		○		
	6	カジカ	カマキリ	希少性		危急					○		
	7	ヤツメウナギ	カワヤツメ	希少性		不足					○		
	8	ハゼ	カワヨシノボリ	希少性		不足							
	9	カジカ	カンキョウカジカ	希少性		希少					○		
	10	ハゼ	ジュスカケハゼ	希少性		危惧						池・ワンド	
	11	ハゼ	シロウオ	希少性	準絶滅	希少							
	12	ハゼ	シンジコハゼ	希少性	危惧Ⅱ	危急				○		汽水域の池・ワンド	
	13	ヤツメウナギ	スナヤツメ	希少性	危惧Ⅱ	希少							
	14	ドジョウ	ドジョウ	希少性		希少			○				
	15	イシガイ	ドブガイ（タガイ・ヌマガイ）	希少性		危急			○			池・ワンド	
	16	トビウオ	トミヨ	希少性		危急				○		湧水帯	
	17	ナマズ	ナマズ	希少性		危惧		○					
	18	シジミガイ	マシジミ	希少性		危急			○			淡水	
	19	コイ	マルタ	希少性		不足					○		
	20	メダカ	メダカ	希少性	危惧Ⅱ	危急			○			池・ワンド	
	21	モノアラガイ	モノアラガイ	希少性	準絶滅	危急			○			池・ワンド	
	22	トビウオ	降海型イトヨ	希少性		危急				○	○	ワンド	
	23	ハゼ	マハゼ	生態系					○			海水～汽水性	
	24	イワガニ	モクズガニ	生態系					○		○	水域	
	25	ハゼ	トウヨシノボリ	生態系					○	○	○	水域・底生魚	
	26	アユ	アユ	生態系					○		○	水域、中流域の砂礫底で産卵	
底生動物	1	ヤンマ	アオヤンマ	希少性		県希少			○				
	2	ゲンゴロウ	キペリマメゲンゴロウ	希少性		県希少							
	3	ゲンゴロウ	キボシケシゲンゴロウ	希少性		県危急							
	4	カメムシ	コミズムシ	希少性			評価Ⅳ						
	5	タイコウチ	タイコウチ	希少性			評価Ⅳ		○			池・ワンド	
	6	トンボ	チョウトンボ	希少性		県希少			○			池・ワンド	
	7	イシガイ	ドブガイ（タガイ・ヌマガイ）	希少性		県危急			○			池・ワンド・細流	
	8	ガムシ	ヒメガムシ	希少性		県希少							
	9	タイコウチ	ヒメミズカマキリ	希少性		県希少							
	10	ヒラマキガイ	ヒラマキガイモドキ	希少性		県不足							
	11	トンボ	マイコアカネ	希少性		県危急			○				
	12	シジミガイ	マシジミ	希少性		県危急			○			淡水	
	13	マツモムシ	マツモムシ	希少性			評価Ⅳ						
	14	モノアラガイ	モノアラガイ	希少性	準絶滅	県危急			○			池・ワンド	
	15	ゲンゴロウ	モンキマメゲンゴロウ	希少性			評価Ⅳ						
	16	ゲンゴロウ	ルイスツブゲンゴロウ	希少性		県希少							
	17	ゴカイ綱	ゴカイ類	生態系					○			汽水性	
	18	シジミ	ヤマトシジミ	生態系						○		汽水性	
	19	ヌマエビ	ヌマエビ	生態系					○			池・ワンド（止水・緩流）	
	20	トンボ	イトトンボ類（トンボ類でも可）	生態系					○			池・ワンド（止水・緩流）	
	21	イワガニ	モクズガニ	生態系					○		○	水域	
	22	トビケラ	トビケラ類	生態系					○			上流域	
植物	1	リンドウ	アケボノソウ	希少性		県危急				○			
	2	アカバナ	ウスゲテョウジタデ	希少性	準絶滅					○			
	3	バラ	カワラサイコ	希少性		県希少			○				
	4	マメ	サイカチ	希少性		県希少				○			
	5	マメ	ツメレンゲ	希少性		県希少				○			
	6	タデ	ノダイオウ	希少性	危惧Ⅱ					○			
	7	バラ	ハマナス	希少性		県絶滅				○			
	8	キク	フジバカマ	希少性	危惧Ⅱ	県危急				○			
	9	カヤツリグサ	フトイ	希少性		県危急			○				
	10	マツモ	マツモ	希少性		県危惧				○			
	11	ミクリ	ミクリ	希少性	準絶滅					○			
		カヤツリグサ	コウボウムギ	生態系					○			河口砂州の典型種	
		イネ	ヨシ	生態系					○			湿地の典型種	
		イネ	ツルヨシ	生態系					○			上流砂礫地水辺の典型種	
		ガマ	ヒメガマ	生態系					○			池・ワンドの水辺の典型種	
		キク	カワラハハコ、カワラハハコ群落	生態系					○			礫河原の典型種・植生	
		グミ	アキグミ、アキグミ群落	生態系					○			礫河原の典型種・植生	
		ヤナギ	ヤナギ林（カワヤナギ）	生態系					○			河畔林（水際）の典型種・植生	
		クルミ	オニグルミ林	生態系					○			河畔林（後背地）の典型種・植生	

表 2-3 庄川で確認された特定種等一覧表

生物	No.	科名	種名	主たる 選定理由	種の選定根拠								備考
					希少性		良好な環境 自然環境 保全調査	生態系の特徴を表す種					
					環境庁 RDB	富山県 RDB		上位性	典型性	特殊性	移動性		
鳥類	1	カワセミ	アカショウビン	希少性		県希少		○				水域（山地渓流域）の上位種	
	2	シギ	イソシギ	希少性		県希少			○			干潟、礫河原	
	3	タカ	オオタカ	希少性	準絶滅	県危急	保存	○				庄川・小矢部川では河原で狩りをするのを時 折見かける	
	4	クイナ	オオバン	希少性		県希少			○			高茎湿地	
	5	タカ	オジロワシ	希少性	危惧ⅠB	県希少	国天、保存	○					
	6	カワセミ	カワセミ	希少性		県希少		○	○			水域の上位種（魚食性）	
	7	タカ	クマタカ	希少性	危惧ⅠB	県危惧	保存	○					
	8	サギ	クロサギ	希少性		県希少		○					
	9	カモメ	コアジサシ	希少性	危惧Ⅱ	県危急		○		○		水域の上位種（魚食性）	
	10	ツグミ	コサメビタキ	希少性		県希少							
	11	チドリ	コチドリ	希少性		県希少			○			干潟、礫河原	
	12	サギ	ササゴイ	希少性		県希少		○	○			水域の上位種（魚食性）	
	13	サンショウクイ	サンショウクイ	希少性	危惧Ⅱ	県希少							
	14	チドリ	シロチドリ	希少性		県希少			○			干潟、礫河原	
	15	ウグイス	セッカ	希少性		県希少			○				
	16	サギ	チュウサギ	希少性	準絶滅	県希少		○	○			水域の上位種（魚食性）	
	17	タカ	チュウヒ	希少性	危惧ⅠB	県危急		○					
	18	カモ	トモエガモ	希少性	危惧Ⅱ	県希少							
	19	タカ	ハイタカ	希少性	準絶滅	県希少		○					
	20	ハヤブサ	ハヤブサ	希少性	危惧Ⅱ	県危急	保存	○				水域の上位種	
	21	カモ	ホオジロガモ	希少性		県希少							
	22	カモ	ミコアイサ	希少性		県希少							
	23	タカ	ミサゴ	希少性	準絶滅	県希少		○				水域の上位種	
	24	カモ	ヨシガモ	希少性		県希少			○				
	25	カモ	カモ類	生態系					○			水面の典型種	
	26	ウグイス	オオヨシキリ	生態系					○			ヨシ原の典型種	
	27	サギ	サギ類	生態系				○	○			水域の上位種（魚食性）、かつ水 辺の典型種	
	28	サギ	サギ類のコロニー	生態系						○		繁殖場となるコロニーがある	
両生類・ 爬虫類・ 哺乳類	1	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	希少性			重要(両)			○		両生類：山地溪流	
	2	アカガエル	トノサマガエル	－					○			両生類：湿地・ワンド・池	
	3	イシガメ	クサガメ	－					○			爬虫類：ワンド・池	
	4	カナヘビ	カナヘビ	－					○			爬虫類：草地	
	5	ネズミ	アカネズミ	－					○			哺乳類：耕作地・草地	
	6	ウサギ	ノウサギ	－					○			哺乳類：耕作地・草地	
	7	イタチ	イタチ	－				○				哺乳類：耕作地・草地の上位	
陸上昆虫 類等	1	ヤンマ	アオヤンマ	希少性		県希少			○				
	2	カワトンボ	オオカワトンボ	希少性		県希少			○				
	3	ヤンマ	キトンボ	希少性		県希少			○				
	4	ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ	希少性		県希少			○			池、ワンド	
	5	ホタル	ゲンジボタル	希少性		県希少				○		流入水路	
	6	ジャノメチョウ	コジャノメ	希少性			重要(昆)						
	7	ハンミョウ	コハンミョウ	希少性		県危急							
	8	カメムシ	コミズムシ	希少性			評価Ⅳ						
	9	トンボ	チョウトンボ	希少性		県希少			○				
	10	カワトンボ	ハグロトンボ	希少性			重要(昆)		○				
	11	ガムシ	ヒメガムシ	希少性		県希少			○				
	12	クワガタムシ	ヒラタクワガタ	希少性		県危急			○			河畔林	
	13	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ	希少性			重要(昆)						
	14	ジョウカイボン	ホツカイジョウカイ	希少性			重要(昆)						
	15	ヤンマ	マイコアカネ	希少性		県危急							
	16	ヤンマ	マダラヤンマ	希少性		県危急							
	17	ヤンマ	ミヤマアカネ	希少性		県希少							
	18	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	希少性			重要(昆)						
	19	ゲンゴロウ	モンキマメゲンゴロウ	希少性			評価Ⅳ						
	20	サシガメ	ヨコヅナサシガメ	希少性		県希少							
	21	ツチカメムシ	ヨコヅナツチカメムシ	希少性		県希少							
	22	トンボ	ヨツボシトンボ	希少性			評価Ⅳ						
	23	トンボ	イトトンボ類（トンボ類でも可）	生態系					○			池、ワンド	
	24	バッタ	カワラバッタ	生態系					○			礫河原	
	25	バッタ	バッタ類	生態系					○			草地	
	26	シジミチョウ	ベニシジミ	生態系					○			草地	

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 特徴的な河川景観

庄川上流域は庄川峡に代表される峡谷が連続しており、御母衣ダム・小牧ダムによるダム湖とブナ・ナラ等の自然林が雄大な環境を創り出し、連続したダム湖がV字谷を映して水面をたたえ、山々と広大な水面が調和して独特の景観を形成している。

また、河川に沿って階段状の河岸段丘が形成され、豊富な地下水が河川敷内のいたるところに湧水としてあらわれている。

上流から下流まで、地形の変化に富む庄川流域には、黒滝など落差約 70m のものなど大小様々な滝が見うけられる。



分水嶺公園

岐阜県・ひるがの高原の分水嶺に作られている。大日ヶ岳より流れ出た清流はここで南北へと分かれ、北は庄川から日本海へ、南は長良川から太平洋へと流れていく。



魚帰りの滝

釣りシーズンには多くの釣り人が訪れ、毎年盛大なアマゴ釣り大会が開かれる。幅約 14m、落差約 6 m。



御母衣ダム・御母衣湖

高さ 131m、幅 405m のロックフィルダムが大きな人工の湖を有している。



桂湖

五箇山近辺に位置する、境川ダムにより形成されたダム湖。周囲を五箇山県立自然公園と白山国立公園で囲まれており、キャンプ場等の設備が充実している。



河岸段丘

庄川によって形成された河岸段丘を合掌造り集落等が利用している。



庄川峡

岐阜県の白川郷から五箇山を通り抜け、庄川町の小牧ダムまでの区間。小牧ダムから大牧温泉へ遊覧船が運航されている。



鎧壁

小牧発電所上流に庄川の浸食によってできた壁。砂岩と泥岩が幾層にも重なっており、真下の河床には大小のポットホールと呼ばれる穴があり、庄川の激流によって流された砂礫が長い時間をかけて岩を削ってできたものである。



散居村展望台

針伏山山頂にある展望台。周囲は冬期、夢の平スキー場となる。扇状地に民家が点在する散居村を特徴とした砺波平野や日本海を一望できる。



湧水池群

下流部では、豊富な地下水が河川敷内のいたるところに湧水として現れている。

2-3-2 文化

(1) 記念物（史跡・名勝及び天然記念物）

庄川流域には、国指定の史跡3物件、天然記念物5物件、県指定の史跡2物件、名勝1物件、天然記念物21物件がある。また、庄川の想定氾濫区域内には、県指定の史跡4物件、天然記念物2物件がある。

表 2-4 庄川流域及び氾濫域の記念物（史跡・名勝及び天然記念物）

■流域内の国指定記念物

番号	種別		種類	名称	所在地	指定年月日
1	国特別	記念物	天然記念物	カモシカ	富山県内	S30.02.15
2	国指定	記念物	天然記念物	脇谷ノとちのき	富山県南砺市	S37.10.20
3	国指定	記念物	天然記念物	イヌワシ	富山県内	S40.05.12
4	国指定	記念物	天然記念物	ヤマネ	富山県内	S50.06.26
5	国指定	記念物	史跡	串田新遺跡	富山県射水市	S51.09.20
6	国指定	記念物	史跡	越中五箇山相倉集落	富山県南砺市	S45.12.04
7	国指定	記念物	史跡	越中五箇山菅沼集落	富山県南砺市	S45.12.04
8	国指定	記念物	天然記念物	治郎兵衛のイチイ	岐阜県高山市	H06.01.25

■流域内の県指定記念物

番号	種別		種類	名称	所在地	指定年月日
1	県指定	記念物	天然記念物	上麻生のあしつきのり	富山県高岡市	S40.01.01
2	県指定	記念物	天然記念物	蓮源寺の大カエデ	富山県高岡市	S44.10.02
3	県指定	記念物	天然記念物	トミヨとゲンジボタル 及びヘイケボタル生息地	富山県高岡市	S45.12.19
4	県指定	記念物	天然記念物	厳照寺の門杉	富山県砺波市	S40.10.01
5	県指定	記念物	天然記念物	今山田の大かつら	富山県富山市	S40.10.01
6	県指定	記念物	天然記念物	串田のひいらぎ	富山県射水市	S40.01.01
7	県指定	記念物	天然記念物	西広上のあしつきのり	富山県射水市	S40.01.01
8	県指定	記念物	天然記念物	坂上の大杉	富山県南砺市	S42.09.26
9	県指定	記念物	史跡	増山城跡	富山県砺波市	S40.01.01
10	県指定	記念物	史跡	大塚古墳	富山県射水市	S40.01.01
11	県指定	記念物	天然記念物	明善寺のイチイ	岐阜県白川村	S49.11.13
12	県指定	記念物	天然記念物	下田のイチイ	岐阜県白川村	S49.11.13
13	県指定	記念物	天然記念物	芦倉八幡神社のスギ	岐阜県白川村	S49.11.13
14	県指定	記念物	天然記念物	おおたザクラ	岐阜県白川村	S47.07.12
15	県指定	記念物	天然記念物	稗田のとち	岐阜県白川村	S49.11.13
16	県指定	記念物	天然記念物	長瀬神明神社叢	岐阜県白川村	S49.11.13
17	県指定	記念物	天然記念物	神代スギ	岐阜県高山市	S45.01.20
18	県指定	記念物	天然記念物	森茂白山神社叢	岐阜県高山市	S49.03.06
19	県指定	記念物	天然記念物	野平家のイチイ防風林	岐阜県高山市	S58.02.25
20	県指定	記念物	天然記念物	六廐の夫婦スギ	岐阜県高山市	S35.10.03
21	県指定	記念物	天然記念物	荘川ザクラ	岐阜県高山市	S41.12.13
22	県指定	記念物	天然記念物	牛丸ジュラ紀化石	岐阜県高山市	S34.11.16
23	県指定	記念物	天然記念物	尾上郷ジュラ紀化石	岐阜県高山市	S34.11.16
24	県指定	記念物	名勝	白水滝	岐阜県白川村	S33.12.14

■想定氾濫区域内の県指定記念物

番号	種別		種類	名称	所在地	指定年月日
1	県指定	記念物	天然記念物	専念寺の傘松	富山県射水市	S40. 01. 01
2	県指定	記念物	天然記念物	今開発の大ヒイラギ	富山県射水市	S42. 09. 26
3	県指定	記念物	史跡	高岡城跡	富山県高岡市	S40. 01. 01
4	県指定	記念物	史跡	前田利長墓所	富山県高岡市	S40. 01. 01
5	県指定	記念物	史跡	瑞竜寺の石廟	富山県高岡市	S45. 03. 02
6	県指定	記念物	史跡	木舟城跡	富山県高岡市	S40. 10. 01

(2) 文化財

庄川流域には、国指定の有形文化財 6 物件、登録有形文化財 2 物件、県指定の有形文化財 13 物件、有形民俗文化財 1 物件、無形民俗文化財 4 物件がある。また、庄川の想定氾濫区域内には国宝瑞龍寺及び国指定の有形文化財 15 物件、登録有形文化財 23 物件、有形民俗文化財 1 物件、無形民俗文化財 1 物件、県指定の有形文化財 25 物件、無形民俗文化財 3 物件がある。

表 2-5 庄川流域及び氾濫域の文化財

■流域内の国指定及び登録文化財

番号	種別		種類	名称	所在地	指定年月日
1	国指定	有形文化財	建造物	白山宮本殿	富山県南砺市	S33. 05. 14
2	国指定	有形文化財	建造物	村上家住宅	富山県南砺市	S33. 05. 14
3	国指定	有形文化財	建造物	岩瀬家住宅	富山県南砺市	S33. 05. 14
4	国指定	有形文化財	建造物	羽馬家住宅	富山県南砺市	S33. 05. 14
5	国指定	有形文化財	建造物	和田家住宅	岐阜県白川村	H07. 12. 26
6	国指定	有形文化財	建造物	旧遠山家住宅	岐阜県白川村	S46. 12. 28
7	国登録	有形文化財	建造物	小牧ダム	富山県砺波市	H14. 06. 25
8	国登録	有形文化財	建造物	庄川合口堰堤	富山県砺波市	H16. 06. 18

■流域内の県指定文化財

番号	種別		種類	名称	所在地	指定年月日
1	県指定	有形文化財	建造物	五箇山の念仏道場	富山県南砺市	S61. 07. 18
2	県指定	有形文化財	建造物	旧上中田念仏道場	富山県南砺市	S63. 02. 25
3	県指定	有形文化財	建造物	羽馬家住宅	富山県南砺市	H10. 02. 25
4	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色大威徳明王図	富山県砺波市	S56. 01. 22
5	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色両界曼荼羅図 (金剛界曼荼羅図、胎蔵界曼荼羅図)	富山県砺波市	S56. 01. 22
6	県指定	有形文化財	彫刻	銅造観世音菩薩立像	富山県砺波市	S40. 01. 01
7	県指定	有形文化財	彫刻	僧形八幡神像	富山県南砺市	S47. 10. 05
8	県指定	有形文化財	彫刻	木造十一面観世音菩薩立像	富山県高岡市	S40. 01. 01
9	県指定	有形民俗	有形民俗	流刑小屋	富山県南砺市	S40. 10. 01
10	県指定	無形民俗	無形民俗	利賀の初午行事	富山県南砺市	H16. 07. 16
11	県指定	有形文化財	建造物	明善寺鐘樓門	岐阜県白川村	S43. 05. 06
12	県指定	有形文化財	建造物	明善寺庫裏	岐阜県白川村	S43. 05. 06
13	県指定	有形文化財	建造物	民家合掌造	岐阜県白川村	S46. 12. 14
14	県指定	有形文化財	建造物	和田家板蔵・稲架屋	岐阜県白川村	S47. 01. 11
15	県指定	有形文化財	書跡・典籍 ・古文書	三島家住宅附見取図	岐阜県高山市	S47. 12. 13
16	県指定	無形民俗	無形民俗	こだいじん	岐阜県白川村	S37. 10. 19 S51. 06. 04
17	県指定	無形民俗	無形民俗	白川村の獅子舞	岐阜県白川村	H07. 11. 21
18	県指定	無形民俗	無形民俗	白川村の春駒踊り	岐阜県白川村	H09. 07. 29

■想定氾濫区域内の国指定文化財

番号	種別		種類	名称	所在地	指定年月日
1	国宝	有形文化財	建造物	瑞龍寺	富山県高岡市	M42. 04. 05 S57. 06. 10
2	国指定	有形文化財	建造物	瑞龍寺 (総門等)	富山県高岡市	M42. 04. 05 S57. 06. 10
3	国指定	有形文化財	建造物	菅野家住宅	富山県高岡市	H06. 12. 27
4	国指定	有形文化財	建造物	佐伯家住宅	富山県高岡市	S46. 03. 11
5	国指定	有形文化財	絵画	紙本著色 (一塔兩尊像 日蓮像 鬼子母神十羅刹女像) 絹本著色三十番神像	富山県高岡市 (高岡市美術館)	H09. 06. 30
6	国指定	有形文化財	彫刻	木造千手観音坐像	富山県高岡市	S12. 05. 25
7	国指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像	富山県砺波市	T13. 08. 16
8	国指定	有形文化財	工芸品	太刀 銘 順慶	富山県高岡市	S10. 04. 30
9	国指定	有形文化財	工芸品	太刀 銘 国資	富山県高岡市	S14. 05. 27
10	国指定	有形文化財	工芸品	太刀 銘 備中以下切	富山県高岡市	S27. 03. 29
11	国指定	有形文化財	工芸品	脇差 銘 備州長船元重	富山県高岡市	S29. 03. 20
12	国指定	有形文化財	工芸品	薙刀 銘 来国俊	富山県高岡市	S30. 02. 02
13	国指定	有形文化財	工芸品	太刀 銘 守利	富山県高岡市	S35. 06. 09
14	国指定	有形文化財	工芸品	銅錫杖頭 (双竜飾)	富山県高岡市	S38. 07. 01
15	国指定	有形文化財	書跡・典籍 ・古文書	紙本墨書後陽成院宸翰御消息	富山県高岡市	M38. 04. 04
16	国指定	有形文化財	歴史資料	石黒信由関係資料 附石黒信由像 (絹本著色)	富山県射水市	S59. 06. 06 H10. 06. 30
17	国登録	有形文化財	建造物	高岡商工会議所伏木支所 (旧伏木銀行)	富山県高岡市	H08. 12. 20
18	国登録	有形文化財	建造物	清水町配水塔資料館旧配水塔	富山県高岡市	H08. 12. 20
19	国登録	有形文化財	建造物	清水町配水塔資料館水源地下水槽	富山県高岡市	H09. 05. 07
20	国登録	有形文化財	建造物	清水町配水塔資料館旧第三源井上屋	富山県高岡市	H09. 05. 07
21	国登録	有形文化財	建造物	澤田家住宅主屋	富山県高岡市	H09. 06. 12
22	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅主屋	富山県高岡市	H09. 12. 12
23	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅茶室	富山県高岡市	H10. 04. 21
24	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅 1 番の蔵	富山県高岡市	H10. 04. 21
25	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅 2 番の蔵	富山県高岡市	H10. 04. 21
26	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅調度蔵	富山県高岡市	H10. 04. 21
27	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅味噌蔵	富山県高岡市	H10. 04. 21
28	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅防火壁	富山県高岡市	H10. 04. 21
29	国登録	有形文化財	建造物	能松家住宅主屋	富山県高岡市	H09. 12. 12
30	国登録	有形文化財	建造物	谷村家住宅主屋	富山県高岡市	H09. 12. 12
31	国登録	有形文化財	建造物	井波屋仏壇店	富山県高岡市	H10. 09. 02
32	国登録	有形文化財	建造物	有藤家住宅	富山県高岡市	H10. 09. 02
33	国登録	有形文化財	建造物	清都酒造場主屋	富山県高岡市	H12. 12. 04
34	国登録	有形文化財	建造物	旧南部鑄造所キューボラ	富山県高岡市	H13. 10. 12
35	国登録	有形文化財	建造物	旧南部鑄造所煙突	富山県高岡市	H13. 10. 12
36	国登録	有形文化財	建造物	大楽寺本堂	富山県射水市	H09. 06. 12
37	国登録	有形文化財	建造物	大楽寺庫裏	富山県射水市	H09. 06. 12
38	国登録	有形文化財	建造物	牧田組本社 (旧南島商工本店)	富山県射水市	H14. 02. 14
39	国登録	有形文化財	建造物	旧宮島村役場	富山県小矢部市	H13. 10. 12
40	国指定	有形民俗	有形民俗	高岡御車山	富山県高岡市	S35. 06. 09
41	国指定	無形民俗	無形民俗	高岡御車山祭の御車山行事	富山県高岡市	S54. 02. 03

■想定氾濫区域内の県指定文化財

番号	種別	種類	名称	所在地	指定年月日	
1	県指定	有形文化財	建造物	筏井家住宅	富山県高岡市	H10.02.25
2	県指定	有形文化財	建造物	万福寺山門	富山県砺波市	S40.01.01
3	県指定	有形文化財	建造物	入道家住宅	富山県砺波市	H10.02.25
4	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色日蓮宗本尊曼荼羅図	富山県高岡市	S40.01.01
5	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色観経浄土変相図	富山県射水市	S40.01.01
6	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色青不動	富山県射水市	S49.07.01
7	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色薬師如来立像	富山県砺波市	S55.01.22
8	県指定	有形文化財	彫刻	木造鳥蜀沙摩明王立像	富山県高岡市	S44.10.02
9	県指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像	富山県小矢部市	S40.01.01
10	県指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像	富山県小矢部市	S44.10.02
11	県指定	有形文化財	彫刻	銅造地藏菩薩立像	富山県射水市	S40.01.01
12	県指定	有形文化財	工芸品	短刀 銘 則重	富山県高岡市	S39.07.14
13	県指定	有形文化財	工芸品	高岡御車山	富山県高岡市	S42.03.25
14	県指定	有形文化財	工芸品	刀 無銘 伝則重	富山県高岡市	S42.03.25
15	県指定	有形文化財	工芸品	刀 金像嵌 銘 義弘 忠恒（花押）	富山県高岡市	S50.01.20
16	県指定	有形文化財	工芸品	刀 銘 友次	富山県高岡市	S57.01.18
17	県指定	有形文化財	工芸品	専念寺の銅鐘 文明6年在銘立山云々	富山県射水市	S40.01.01
18	県指定	有形文化財	工芸品	刀銘 宇多国宗 天文六年二月 日	富山県小矢部市	S42.03.25
19	県指定	有形文化財	工芸品	越中瀬戸焼香炉	富山県射水市	S40.01.01
20	県指定	有形文化財	工芸品	刀 銘 国次（宇多）	富山県高岡市	S42.03.25
21	県指定	有形文化財	書跡・典籍 ・古文書	紙本墨書近衛信尋筆懷紙	富山県高岡市	S44.10.02
22	県指定	有形文化財	書跡・典籍 ・古文書	金子家文書	富山県砺波市	S49.07.01
23	県指定	有形文化財	歴史資料	前田家寄進の宝物	富山県高岡市	S40.01.01
24	県指定	有形文化財	歴史資料	清都家測量器具等関係資料	富山県高岡市	H01.06.15
25	県指定	有形文化財	歴史資料	高樹文庫資料	富山県射水市	S40.01.01 H05.04.09
26	県指定	無形民俗	無形民俗	放生津八幡宮の築山行事	富山県射水市	S57.01.18
27	県指定	無形民俗	無形民俗	新湊のボンボコ祭	富山県射水市	H16.07.16
28	県指定	無形民俗	無形民俗	出町子供歌舞伎曳山	富山県砺波市	H06.02.24

出典：岐阜県文化財図録 HP・富山県デジタル文化ミュージアム HP



合掌集落

菅沼合掌集落・相倉合掌集落・白川郷の荻町合掌集落とともに平成 7 年 12 月に世界遺産に登録された。

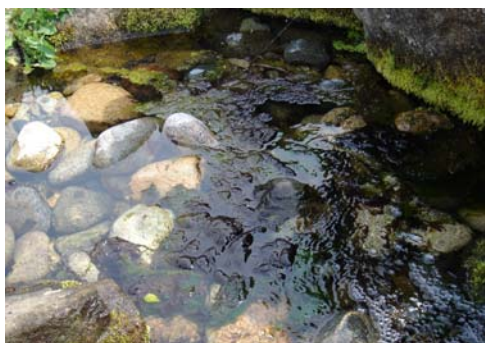


白水滝

白川村平瀬から大白川橋を渡って、大白川右岸を東方へ県道白山公園線を約 12. 5km いったところの道路下の遊歩道で 5 分の位置にある。

滝の高さ 72m、幅 8m の荘厳な流れは絶壁を地響きをたてて流れ落ちる。滝のしぶきは水煙となる。対岸 150m の観瀑場からの眺めは壮観を極める。この流れ落ちた水の色が乳白色のところから「白水滝」とよばれ、「白川郷」の名の由来とも伝えられている。

写真提供：白川村産業課商工観光係



あしつき

万葉集で伴家持が「雄神川 くれなみにほう乙女らし 葦附とると 瀬に立たすらし」と詠んでおり、石などに付着して育成する藻の一種。豊富な酸素を必要とし、清水でしか育成しない。



荘川ザクラ

国道 156 号線沿いの中野展望台の御母衣ダム湖に面するところに荘川ザクラ 2 本がある。湖底に沈んだ中野地区住民の心のふるさととなっていた照蓮寺、光輪寺の庭にあった樹齢 500 年といわれる老桜を初代電源開発総裁のはからいで、現在の場所へ昭和 35 年 (1960) 秋に移植されたものである。



おおたザクラ

本堂に向かって左側にあるこのサクラは、根元の幹周囲 2. 25m、幹は根元のすぐ上から 2 幹に分かれており、太い方の周囲 1. 5m、細い方の周囲 1. 0m、樹高 6. 7m、枝張り東 3. 7m、西 5. 9m、南 2. 0m、北 6. 3m である。花期は 5 月下旬で淡紅色の八重の花をつける。

このサクラは、画家の太田洋愛氏が本覚寺境内で昭和 44 年 (1969) 5 月に発見したサトザクラの新種であり、花が大きく花弁の多いものは 90 枚を数え、雌しべの数は 15~20 本である。

写真提供：白川村産業課商工観光係



高岡城址

前田利長が築いた高岡城の跡にある高岡古城公園は、敷地面積の 3 割を壕が占める全国でも珍しい水郷公園。

2-4 庄川流域及び氾濫域の歴史・文化・観光施設等

(1) 歴史・史跡



瑞龍寺

曹洞宗の大寺院瑞龍寺は加賀藩の名匠山上善右衛門を棟梁とした、江戸時代初期の仏殿建築であり、加賀藩2代藩主前田利長の菩提寺である。仏殿、法堂、山門の3棟が平成9年、富山県初の国宝に指定されており、総門、烏菟沙摩明王堂、大茶堂、高廊下、回廊3、附けたりとして、棟札8枚、銘札3枚、指図2点は重要文化財に指定されている。



井堰神社

庄川本流から取水している用水の最上流にある用水の神社。他にも多数の水神が庄川流域に祀られている。



松川除

堤防が流されないように松の木が数百本植えられたことから「松川除」と呼ばれるようになった。現在でも、雄神橋上下流の堤防（弁財天付近）でその名残の松を見ることができる。



弁財天

1663年（寛文3年）の洪水で本殿と拝殿の間に流路が出来たため、本殿は山際に移し、現在の地に残った拝殿に、本殿と同じ神様を祀った。33年に一度の開帳には多くの参拝者が訪れる。



小牧ダム

昭和5年に完成した高さ80mの水力発電用ダムで完成当時は東洋一と言われた。平成14年6月に国の登録文化財に指定された。



庄川用水合口ダム

昭和14年に左岸側、翌15年に右岸側が完成し、これまで洪水等による川筋の変化により安定しなかった水源が整備された。これにより砺波平野は県内有数の穀倉地帯となった。平成16年6月に国の登録文化財に指定された。

(2) 文化



荘川の里

旧荘川村ならではの造り方で知られる入母屋合掌造りの民家が移築されている。二世紀以上も風や雪に耐えてきた建物から、昔の農家の暮らしが忍ばれる。

出典：飛騨荘川観光協会ＨＰ



利賀の郷

世界演劇祭の舞台となった「富山県利賀芸術公園」やネパールの絵師が描いた曼陀羅を有する「瞑想の郷」、利賀そば祭りの会場となる「利賀そばの郷」など文化を育み発信している。

(3) 観光・イベント



どぶろく祭り

どぶろく祭りは、奈良時代から続いている奇祭で、一番寒いときに仕込んだどぶろくと獅子舞や民謡などを神様に捧げる。また、どぶろくは、参拝者にもふるまわれる。



こきりこ祭り

薄い木の板を何枚も重ねた「ささら」と2本のしの竹「きりこ」を打ちあわせる「こきりこ踊り」を奉納し、その年の五穀豊穡を感謝する祭り。



初午祭り

子供たちがその年の豊作を願い、揃いのはんてんとはちまきで村の家々をまわる。馬もち、太鼓たたき、俵ころがし、スットコ坊主、歌い手などの役を分担し、歌にあわせて俵を担いだり放り出したりし、家々に福を運ぶ。



厄払い鯉の放流

厄年を迎える男女が鯉に御神酒を飲ませ、庄川に放流する。生命力あふれる鯉にあやかり、無事その年を送ることができると言われている。



城端むぎや祭り

五箇山の代表的な民謡「むぎや節」が、1951年（昭和26年）から城端で歌い踊られるようになり、今に至っている。歌には平家の落人伝説がおりこまれ、もの哀しい響きを帯びている。



庄川水まつり

庄川町水記念公園で毎年8月上旬に行われている。かつて、飛騨から切り出した木材を庄川に流して運び、庄川町に集めていた。水に浮かぶ木材の上に乗って上手にあやつる「流木乗り選手権」は、昔の流木技術を今に伝えるイベント。また、名産の木工品や特産品の販売などの催しも同時に開かれる。



子供歌舞伎

曳山の上で演じられる子供歌舞伎は200年もの長い伝統を誇る。役者は5歳から13歳までの子供たちで、歌舞伎の化粧をほどこし、華やかな時代衣装を身につけ、大人顔負けの熱演をくりひろげる。「トメヤマ」と呼ばれるクライマックスには、最高の盛り上がりを見せる。



庄川観光祭

町をあげての観光祭りで、たいまつリレーや、勇壮な夜高あんどんが町を練り歩き、夜の庄川の町を明るく照らす。庄川の川面には七色の灯ろうが流れ、夜空には美しい花火が打ち上げられる。



越中だいもん凧まつり

緑豊かな庄川の河川敷から、色とりどり、大きさも形も様々な凧が大空に舞い上がる。中には36畳もの大凧も泳いで、大きな歓声があがる。

2-5 庄川扇状地の湧水

庄川流域には、「名水」とよばれる湧き水が数多くある。かつては、これらの湧き水や川の水、井戸水などが人々の生活用水として役立ち、大切にされてきた。これらの名水は様々な言い伝えとともに受け継がれている。



トチノキの水（南砺市利賀村）

旧利賀村役場の近くに、かつて幹の回り 10m、樹齢千年のトチの木があり、「水持ちトチノキさま」と呼ばれ、利賀村のシンボルとなっていた。その根元から湧き出す清水は、夏の日照りでもこんこんと湧き、今も飲み水や生活に利用されている。



脇谷の水（南砺市利賀村）

国道 471 号の途中で地蔵が祀ってある湧き水がある。この水は昔から近くに住む人たちの生活に欠かせない水で、今は車で行き来する人の休憩場所になっていることから、交通安全を願って地蔵が祀られた。



鴻の貴の水（南砺市利賀村）

樹齢 600 年以上と伝えられるカツラの木の根本から澄んだ水が湧き出ている。この水飲み場は、山を越えて行き来する人々にとって大切な休憩場所だった。また、この水を飲むと男の子に恵まれたことから「男子水」とも呼ばれている。



中江の霊水（南砺市平）

南砺市平に清水が湧く池があり、神社が建てられている。その昔、大水で村の守り神が流されたとき、村の古老の枕元に神様が立って、村に帰りたいと告げた。村人は急いで迎えに行き、この池に神社を建てて祀った。それ以来、この地区では火事が起きなくなったことから「水神様の水」と呼ばれるようになった。



丸池（南砺市上平）

今から 500 年前に、赤尾道宗が仏様に供えるきれいな水が欲しいと思っていると、枕元に熊野権現が現れ「熊野本宮にある 7 つの霊水のひとつを与えるから、穴を掘りなさい」とお告げがあり、穴を掘ると水が湧き出てこの丸池になった。池の底の砂地から湧き出る水の様子から「極楽の花びらを吹き出す池」とも言われている。



瓜裂清水（砺波市庄川町）

瑞泉寺を開いた禪如上人が庄川で休まれたとき、馬の蹄が突然沈み、そこから清水が湧き出した。里人が差し上げた瓜を冷やすと、あまりの冷たさに瓜が裂けたので、禪如上人が「瓜裂清水」と名付けた。それ以来 600 年間、どんな干ばつにも枯れることはなく、大切な生活の水として守られている。



又兵衛清水（砺波市）

砺波市増山にあった増山城は南北朝時代に越中の三大山城のひとつに数えられていた。ここにある「又兵衛清水」は、増山城主神保氏の家臣山名又兵衛が発見したと伝えられ、歴代の城主の飲み水となっていた。いつも清らかで澄みきった水だったので、そこに映る月の影で時刻を知ったとも言われている。



誕生寺の誕生水（射水市大門町）

法華宗の日隆上人は、1385 年（至徳 2 年）に現在の射水市大門町島で生まれたと伝えられている。生まれた時に庭に水が湧き出し、その水を汲みとって産湯にしたことから、この水を「誕生水」と呼ぶようになった。それから今まで 600 年以上、一度も枯れることはなく、目の病気などいろんな病に効き目がある水として、人々に喜ばれている。



弓の清水（高岡市）

高岡市中田の東側に般若野というところがあり、1183 年（寿永 2 年）木曾義仲と平家一族がここで戦った。木曾軍が今の高岡市常国あたりにさしかかった時、将兵たちは飲み水が無くひどく喉が乾いていた。そこで、源氏の守護神に祈って岩に矢を射ると、刺さったところから清水が湧き出したことから「弓の清水」と名付けられた。

2-6 自然公園等の指定状況

庄川流域の広域的な緑地資源としては、上流の石川、岐阜県境部の白山国立公園、長良川との分水嶺となっている奥長良川県立自然公園、支川利賀川上流の白木水無県立自然公園、平、上平村の合掌集落を中心とした五箇山県立自然公園、庄川峡県定公園、射水丘陵に頼成の森等の県民公園、高岡市内に高岡古城県定公園等が位置している。

また、公園緑地については、主として高岡市、新湊市、砺波市の中心市街地、及び河川内に分布している。

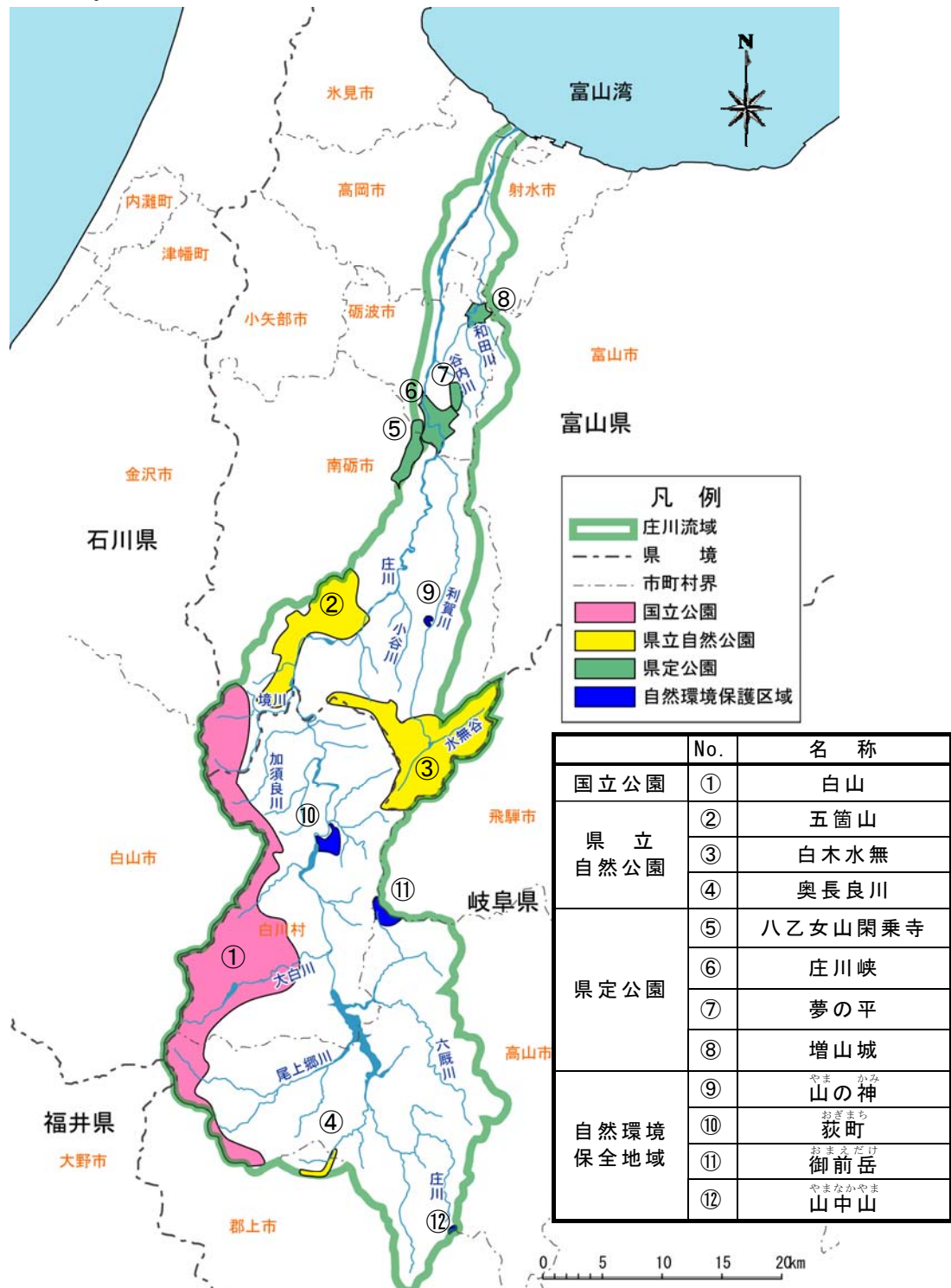


図 2-3 庄川流域の自然公園等の指定状況

第3章 流域の社会状況

3-1 土地利用

庄川流域は、その地形的特徴から山地が大半を占め、特に岐阜県では 97%が山地である。上流部の河岸段丘上には世界遺産にも指定されている白川村・五箇山などの集落が見られる。また、合口用水合口ダム左岸周辺には庄川温泉が隣接し、庄川にゆかりの一体的な観光レクリエーション地を形成し、砺波市庄川町の中心市街地が隣接している。合口堰堤から大門大橋にかけては、両岸の砺波、射水両平野に形成された水田地帯が広がっている。

大門大橋から河口にかけての左岸に高岡市の中心市街地、右岸に射水市の中心市街地が庄川に隣接している。特に、左岸側では大規模な工業施設が庄川と接するなど、右岸に比べ左岸の市街地の集積度は高い。

表 3-1 庄川流域地系別面積

項目	流域全体	山地等	農地			宅地等
			水田	畑	計	
面積 (km ²)	1,189	1,108.5	54.9	13.0	67.9	12.6
構成比 (%)	100	93.2	4.6	1.1	5.7	1.1

出典：庄川流域の概要 (S62.3)

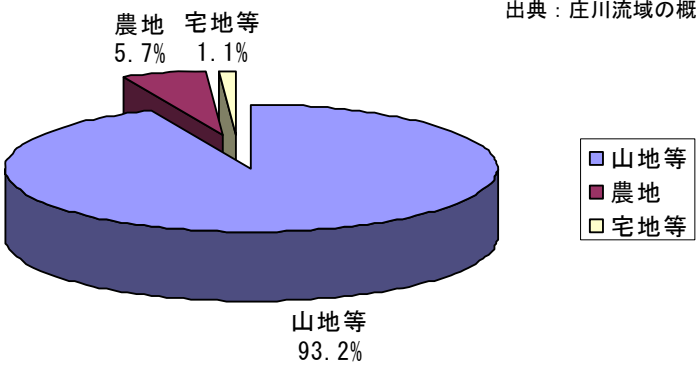


図 3-1 庄川流域地系別流域面積

表 3-2 庄川流域土地利用別計画面積

	流域全体	都市地域	農業地域	森林地域	自然公園地域	自然保全地域
面積 (km ²)	980.3	27.8	114.0	663.0	102.2	73.3
構成比 (%)	100.0%	2.8%	11.6%	67.6%	10.4%	7.5%

出典：河川現況調査 (H12)

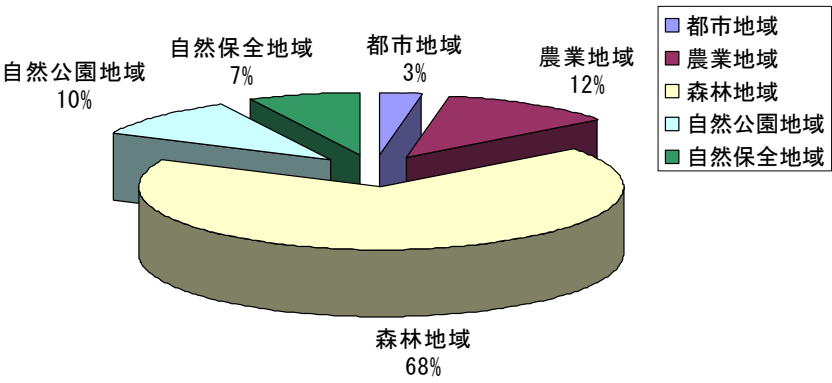


図 3-2 庄川流域内土地利用計画面積

3-2 人口

庄川流域内の総人口は約 28,000 人で、うち 24,200 人(86.6%)を富山県が占めている。また、氾濫区域内の人口は 25 万人を超えている。

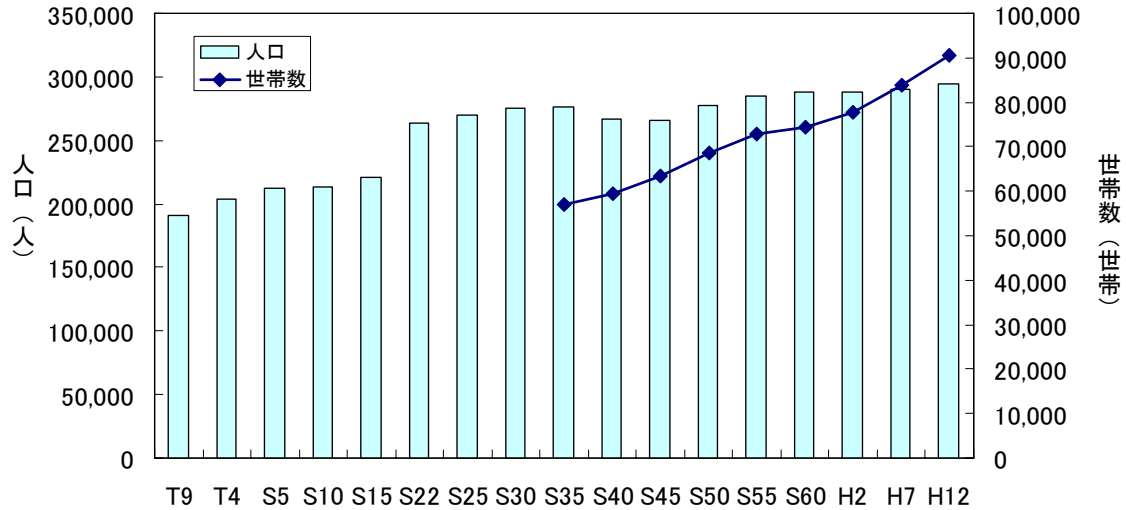


図 3-3 関係市町村人口・世帯数の推移

表 3-3 関係市町村の人口の推移

県名	市町村名		大正 9 年	大正 14 年	昭和 5 年	昭和 10 年	昭和 15 年	昭和 22 年	昭和 25 年	昭和 30 年	昭和 35 年
	合併後	合併前									
富山県	高岡市	高岡市	98,040	104,540	109,337	112,271	117,449	138,862	143,364	148,129	151,226
	砺波市	砺波市	32,336	32,078	32,360	31,660	31,397	37,337	37,861	37,405	36,453
		庄川町	6,150	8,064	7,450	6,630	6,499	7,732	8,165	8,168	7,853
	富山市	婦中町	14,324	14,032	15,549	15,525	16,548	23,494	24,054	24,560	23,928
		山田村	3,168	3,082	3,108	2,967	2,797	3,250	3,255	3,280	3,093
	射水市	大門町	9,481	9,693	9,951	10,277	10,387	12,147	12,425	12,577	12,194
		平 村	3,665	3,818	5,091	4,052	3,844	4,170	3,996	3,714	3,269
	南砺市	上平村	1,705	1,802	1,804	1,818	3,141	2,353	2,502	1,908	1,729
		利賀村	2,981	3,101	3,204	3,055	3,391	4,663	3,562	3,246	3,038
		井波町	9,177	9,247	9,628	10,576	9,762	13,019	13,334	12,453	12,339
	小 計		181,027	189,457	197,482	198,831	205,215	247,027	252,518	255,440	255,122
岐阜県	郡上市	高鷺村		3,712	3,867	3,839	3,653	4,382	4,306	4,350	4,265
	高山市	清見村	4,664	4,545	4,558	4,605	4,865	5,192	4,930	4,751	4,331
		荘川村	2,988	3,200	3,269	3,485	3,713	4,047	3,926	3,558	3,560
	白川村	白川村	2,715	2,889	2,842	2,976	3,066	3,377	3,824	6,688	9,436
	小 計		10,367	14,346	14,536	14,905	15,297	16,998	16,986	19,347	21,592
	合 計		191,394	203,803	212,018	213,736	220,512	264,025	269,504	274,787	276,714

県名	市町村名		昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成 2 年	平成 7 年	平成12年
	合併後	合併前								
富山県	高岡市	高岡市	155, 108	159, 664	169, 621	175, 055	175, 780	175, 466	173, 607	173, 234
	砺波市	砺波市	34, 768	34, 023	34, 286	35, 830	36516	37, 070	38, 531	40, 900
		庄川町	7, 772	7, 380	7, 519	7, 700	7, 634	7, 451	7, 387	7, 311
	富山市	婦中町	23, 082	22, 788	24, 313	26, 458	27, 952	28, 667	32, 579	34, 740
		山田村	2, 695	2, 302	2, 184	2, 188	2, 143	2, 279	2, 200	2, 083
	射水市	大門町	11, 693	11, 378	11, 938	12, 036	12, 393	12, 261	12, 284	12, 467
		平 村	3, 094	2, 401	2, 110	1, 829	1, 770	1, 727	1, 620	1, 481
	南砺市	上平村	1, 428	1, 142	1, 100	1, 103	1, 070	1, 068	1, 016	1, 007
		利賀村	2, 568	1, 961	1, 529	1, 328	1, 310	1, 137	1, 161	1, 110
		井波町	12, 068	11, 789	11, 637	11, 601	11, 540	11, 315	10, 929	10, 407
	小 計		254276	254828	266237	275128	278108	278441	281314	284740
岐阜県	郡上市	高鷺村	3, 871	3, 638	3, 596	3, 380	3, 426	3, 468	3, 475	3, 484
	高山市	清見村	3, 456	2, 881	2, 652	2, 551	2, 576	2, 541	2, 568	2, 657
		荘川村	2, 376	2, 324	2, 163	1, 694	1, 562	1, 450	1, 390	1, 345
	白川村	白川村	3, 211	2, 525	2, 381	2, 132	2, 001	1, 892	1, 893	2, 151
	小 計		12, 914	11, 368	10, 792	9, 757	9, 565	9, 351	9, 326	9, 637
合 計		267, 190	266, 196	277, 029	284, 885	287, 673	287, 792	290, 640	294, 377	

出典：とやま統計ワールド・岐阜県統計書デジタルアーカイブ・高山市 HP 地域人口

表 3-4 関係市町村の世帯数の推移

県名	市町村名		昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成 2 年	平成 7 年	平成12年
	合併後	合併前									
富山県	高岡市	高岡市	32,438	35,878	39,475	43,521	46,136	47,106	49,523	52,456	55,997
	砺波市	砺波市	7,090	7,249	7,499	7,847	8317	8,531	8,944	10,083	11,390
		庄川町	1,633	1,664	1,682	1,768	1,883	1,928	1,925	1,977	2,130
	富山市	婦中町	4,711	4,788	5,033	5,561	6,267	6,668	7,043	8,583	9,768
		山田村	548	526	493	470	472	472	460	484	480
	射水市	大門町	2,380	2,414	2,481	2,734	2,813	2,931	2,990	3,176	3,352
	南砺市	平 村	658	631	573	534	555	534	519	518	511
		上平村	311	295	269	257	382	345	435	357	359
		利賀村	473	425	374	323	388	440	399	440	451
		井波町	2,538	2,610	2,675	2,782	2,836	2,841	2,858	2,899	2,964
	小 計		52780	56480	60554	65797	70049	71796	75096	80973	87402
岐阜県	郡上市	高鷲村	928	919	898	907	898	923	955	1,009	1,063
	高山市	清見村	907	781	668	637	660	666	672	680	813
		荘川村	691	508	542	515	555	485	435	452	429
	白川村	白川村	1,761	768	672	645	681	641	628	662	912
	小 計		4,287	2,976	2,780	2,704	2,794	2,715	2,690	2,803	3,217
	合 計		57,067	59,456	63,334	68,501	72,843	74,511	77,786	83,776	90,619

出典：とやま統計ワールド・岐阜県統計書デジタルアーカイブ・高山市 HP 地域人口

3-3 産業と経済

流域内の産業は、銅器・彫刻といった伝統的産業のほか、流域の豊富な水資源と安価な電力を背景に金属加工産業も発展している。特にアルミサッシ等の軽金属製品においては、出荷シェアで1位であり、銅・銅合金の铸件においても全国1位のシェアとなっている。

就労者人口は、平成7年度で約16千人であり、産業別に見ると第1次産業8.8%、第2次産業43%、第3次産業47.7%となっている。産業の主なものは、下流部のアルミ、パルプ、重化学工業の他、伝統的な地場産業として、高岡市の铸件・陶器、井波町の木彫、庄川町の木工、五箇山の和紙がある。一方、下流部の高岡市、射水市をはじめとする4市は、富山・高岡新産業都市の地域に指定されている他、高岡市、射水市は富山テクノポリス地域の指定を受けており、富山新港の整備とあいまって、今後発展が期待されている。

表 3-5 流域内の労働力構成（平成12年）

県名	市町村名	第1次産業 (人)	第2次産業 (人)	第3次産業 (人)	合計 (人)	第1次産業 (%)	第2次産業 (%)	第3次産業 (%)
富山県	高岡市	2,434	38,981	57,277	98,692	2.5%	39.5%	58.0%
	射水市	1,537	18,612	29,417	49,566	3.1%	37.5%	59.3%
	砺波市	1,486	10,840	13,985	26,311	5.6%	41.2%	53.2%
	南砺市	2,073	15,011	16,133	33,217	6.2%	45.2%	48.6%
	富山市	6,248	72,981	139,852	219,081	2.9%	33.3%	63.8%
	小計	13,778	156,425	256,664	426,867	3.2%	36.6%	60.1%
岐阜県	飛騨市	1372	6617	8265	16254	8.4%	40.7%	50.8%
	白川村	20	712	703	1435	1.4%	49.6%	49.0%
	高山市	5905	15176	33322	54403	10.9%	27.9%	61.3%
	小計	7,297	22,505	42,290	72,092	10.1%	31.2%	58.7%
合計		21,075	178,930	298,954	498,959	4.2%	35.9%	59.9%

出典：農林水産省「わがマチわがムラ」・南砺市 HP 人口と世帯数

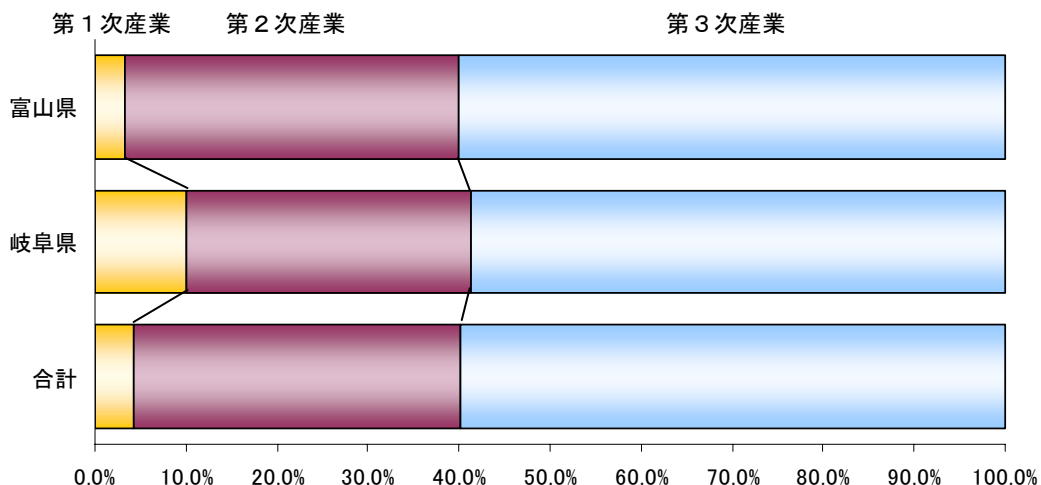


図 3-4 関係市町村の産業就労人口の構成比（平成12年）

表 3-6 主な特産品

市町村名	主な特産品
高岡市	トマト・リンゴ・チューリップ・竹の子・山菜・自然薯・かぶら寿し・かきもち・高岡銅器・高岡漆器
射水市	白ネギ・里芋・柿・ヘチマ・小松菜・梨・ぶどう・竹の子・千石豆・リンゴ・白エビ・ベニズワイガニ
砺波市	柿・リンゴ・チューリップ・庄川ゆず・山菜・大門素麺・庄川挽物木地
南砺市	リンゴ・里芋・菊・ほうきんの実・大かぶ・赤かぶ・カノコユリ球根・千石豆・白ネギ・梨・黒大豆・椿・山菜・どじょう蒲焼・かきもち・とちもち・かぶら寿司・干柿・五箇山豆腐・五箇山そば・利賀そば・清流そうめん・岩魚・井波彫刻
富山市	こまつな・白ネギ・千石豆・トマト・呉羽なし・大かぶ・ぶどう・じゃがいも・自然薯・柿・山菜・菊・いちじく・らっきょう・モロヘイヤ・くすしそば・ます寿司・かまぼこ・啓翁桜・手打ちそば・柿葉寿司・みょうが寿司
飛騨市	飛騨牛・飛騨桃・りんご
白川村	竹細工製品・ほお葉みそ・山菜・岩魚
高山市	飛騨家具・飛騨春慶・一位一刀彫

庄川の豊かで清らかな水は、流域の市町村で様々な名産品を生み育てた。



日本酒

日本酒を造るには、おいしい水と米が必要で、庄川には澄んだ水と実り豊かな穀倉地帯があるため、たくさんの酒造会社が存在する。特に砺波市の酒造量は、富山県内一。



種籾

米を作るために必要な種籾の生産量は砺波市庄川町種田が全国一で「種籾王国」とも呼ばれている。広い水田と豊富な水、そして庄川から吹き下ろす乾いた風が、品質の良い種籾を育てている。



五箇山和紙

その昔、加賀藩に納めていた五箇山和紙は五箇山地方の大切な産業だった。山から切り出した椿の皮をむき、乾かし、何日も水を変えながらさらすことで繊維を柔らかくする。煮溶かした液から紙をすくまでも、きれいな水をたくさん使用する。



五箇山豆腐

紐で縛って持ち歩いても壊れないほど固い五箇山名物の五箇山豆腐は、大豆を一晩水につけてつぶし、にがりを入れて固める。五箇山豆腐を作る店は少なくなったが、郷土料理に欠かせない食材で、お土産としても喜ばれている。

3-4 交 通

庄川本川に沿って続く一般国道 156 号は、岐阜市・白川村・五箇山地方から砺波平野を結ぶ重要な幹線である。これは、庄川の電源開発に伴って整備が進められた国道であるが、過去には急峻な地形と積雪のため、冬期や雨期には落石や崩壊のため通行不能となることも度々発生した。このような悪条件を克服し、常時通行が可能となったのは昭和 54 年になってからのことである。それ以前の冬期の南北交通はダム湖を利用した舟運が唯一の手段であった。また、東西方向には一般国道 8 号、北陸自動車道が、南北方向には一般国道 156 号とともに日本海交流ネットワークの要となるべく地形的条件や地理的条件を克服し、東海北陸自動車道が整備されており安定した物流体制の整備が進んでいる。

鉄道においては、JR 氷見線・JR 城端線による流域内の移動手段および JR 北陸本線による大阪へのルートが確保されており、東京を起点として長野・上越・富山・金沢等の主要都市を経由する北陸新幹線も整備中である。道路の整備と共に庄川流域の産業振興や地域開発に貢献するものと期待されている。

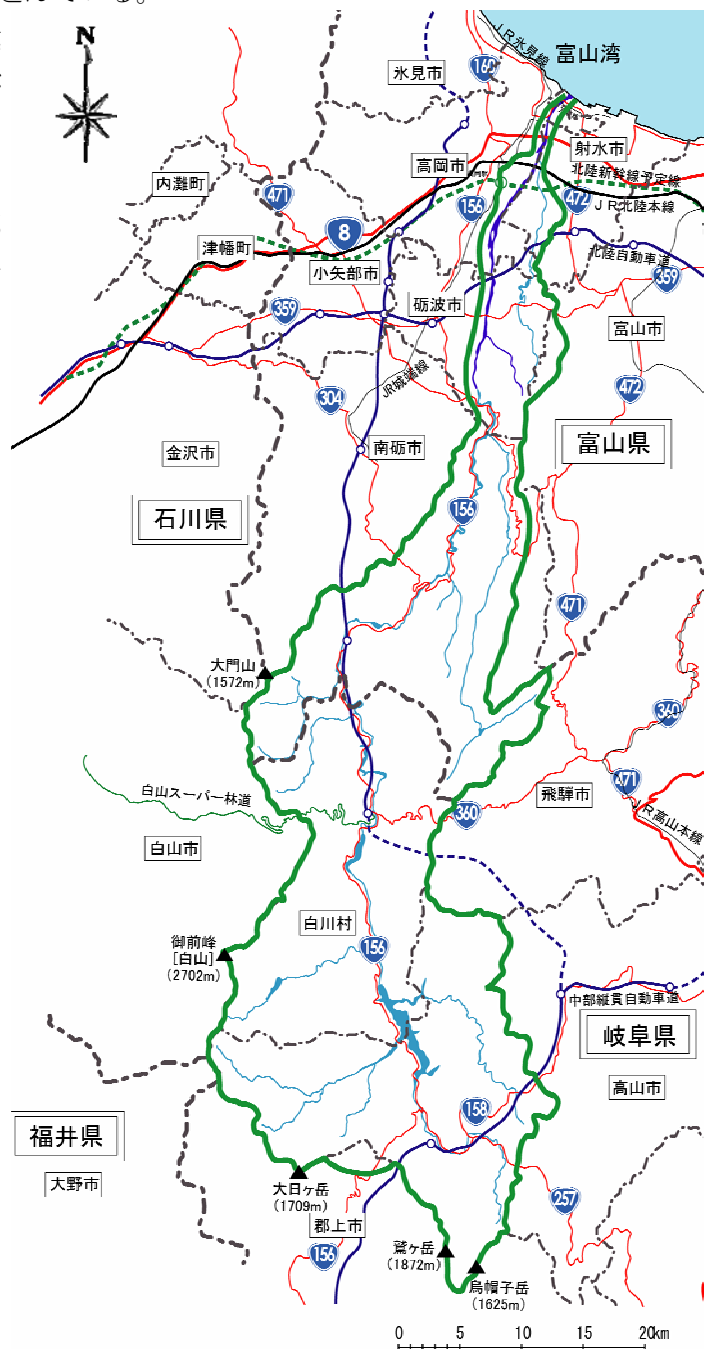


図 3-5 庄川流域の交通網

第4章 水害と治水事業の概要

4-1 既往洪水の概要

庄川流域は、梅雨、台風、冬期の降雪と年間を通じて降水量が豊富である。過去の庄川流域における洪水の多くは、台風に起因するものが多くみられる。

庄川流域において発生した洪水は江戸時代だけでも数十回記録され、明治時代でも 30 回を数えることができる。昭和に入ってからでも、昭和 9 年、34 年、36 年、39 年、50 年、51 年、56 年、58 年と頻繁に発生している。庄川流域における過去の主要な洪水の概要は以下のとおりである。

表 4-1 庄川流域の主な洪水

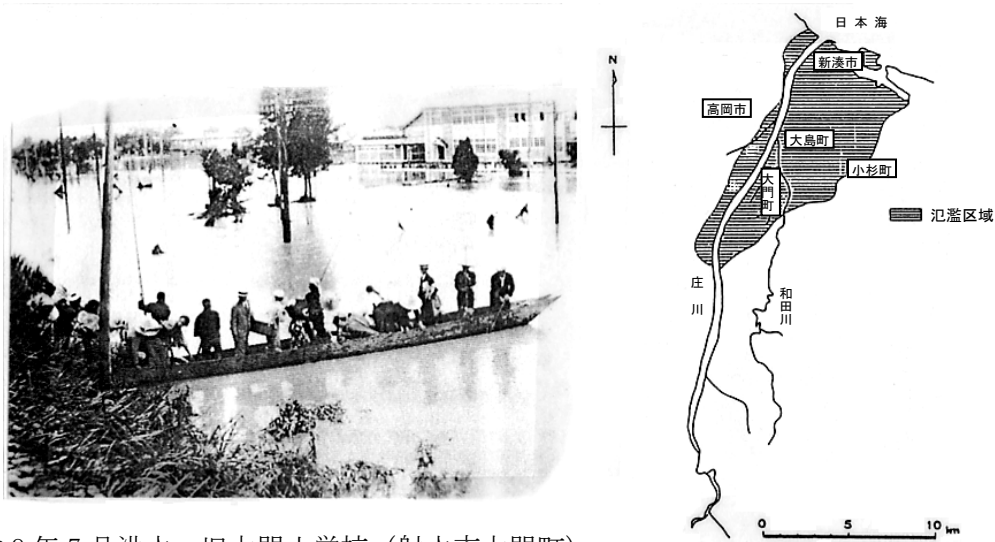
年月	被害概要
天正 13 年 (1585 年)	庄川上流(岐阜県白川村)が震源の大地震による山崩れにより、現在の庄川の川筋が形成。
明和 9 年 (1772 年)	松川除堤防(1714 完成)の破堤
明治 4 年 10 月	大門町(現射水市)にて堤防決壊 人家 5 戸流失、死者 3 名
明治 6 年 4 月	太田村(現砺波市)にて堤防 100 間余りが決壊 田畑約 50ha 流出
明治 6 年 9 月	中野村(現砺波市)にて堤防 350 間決壊 田畑 50ha、人家 2 戸流失
明治 6 年 9 月	浅井村(現射水市)にて堤防 80 間決壊 田地 80ha、人家 2 戸流失
明治 6 年 10 月	浅井村(現射水市)にて堤防決壊 水は和田川へ流入し水門を破った
明治 10 年 4 月	東開発村(現砺波市)にて堤防 700 間破堤、230 間決壊、田地 10ha、 家屋 8 戸流失
明治 14 年 4 月	中野村(現砺波市)堤防決壊、沿岸の田地流失により皇室より 7,000 円を下賜された
明治 14 年 5 月	浅井村(現射水市)にて堤防 2 間決壊、人家 2 戸流失
明治 14 年 8 月	太田村(現砺波市)にて堤防 100 間破堤 田地 35ha 流失
明治 18 年 4 月	浅井村(現射水市)にて堤防決壊 人家 41 戸、田地約 20ha 流失
明治 24 年 9 月	新湊海岸にて堤防 204 間決壊
明治 28 年 8 月	東開発村(現砺波市)にて堤防 92 間破壊、310 間決壊
明治 29 年 7 月	13 万立方尺／秒(約 3,600m ³ /s)【大門地点】 数箇所破堤 流出家屋 248 戸、浸水家屋 2,605 戸、浸水面積 180ha

年月	要因	被害概要
明治 32 年 9 月	—	浅井村(現射水市)にて堤防決壊 田地 30ha 流失 新湊(現射水市)にて人家 1,719 戸浸水、橋 2 本落橋
明治 43 年 9 月	—	射水郡、東砺波郡、西砺波郡にて 1,163ha の氾濫となった
昭和 9 年 7 月	—	最大流量 3,361m ³ /s【小牧推定】を記録。浅井村(現射水市)にて堤防決壊し射水郡の大半が浸水。死者 20 名、負傷者 240 名、流失家屋 94 棟、民家破損 5,418 棟、浸水家屋 4,009 棟、田畑冠水(田 3,986ha、畑 182ha)
昭和 34 年 9 月	台風 15 号	伊勢湾台風による出水 流量：1,906 m ³ /s【大門】
昭和 36 年 9 月	台風 18 号	第二室戸台風による出水 流量：1,457 m ³ /s【大門】
昭和 50 年 8 月	台風 6 号	流量：1,289 m ³ /s【大門】 家屋 13 棟浸水、農地・宅地 1ha 浸水
昭和 51 年 9 月	台風 17 号	流量：2,646 m ³ /s【大門】 加越能鉄道庄川橋梁落橋 家屋 8 棟流失、42 棟浸水、農地宅地 11ha 浸水
昭和 58 年 9 月	台風 10 号	流量：1,674 m ³ /s【大門】 家屋 15 棟浸水、農地宅地 14ha 浸水
昭和 60 年 6 月	梅雨前線	流量：1,210 m ³ /s【大門】 家屋 9 棟床下浸水、農地宅地 16ha 浸水
平成 16 年 10 月	台風 23 号	流量：3,396 m ³ /s【大門】

出典：富山工事事務所六十年史他

【昭和9年7月11日】

10日夜半よりの降雨は、庄川上流岐阜県山岳地帯において未曾有の豪雨となり、11日に最高水位13m10cm、最大流量3,361m³/sを記録し、浅井村で堤防が決壊した。その結果、射水郡の大半は大湖と化し、おびただしい被害をもたらした。死者20名、負傷者240名、流失家屋94棟、民家破損5,418棟、浸水家屋4,009棟、田畑冠水（田3,986ha、畑182ha）



昭和9年7月洪水 旧大門小学校（射水市大門町）

図4-1 氾濫区域図

【昭和50年8月23日】

台風6号による洪水。浸水家屋13棟、農地・宅地の浸水1ha。

【昭和51年9月11日】

台風17号による洪水で戦後最大のピーク流量を大門地点で記録した。この出水により、加越能鉄道庄川橋梁が落橋し、流域内の被害は、流失家屋8棟、浸水家屋42棟、農地・宅地の浸水11ha。



落橋した加越能鉄道橋



大門町柳町地区の浸水状況

【昭和 58 年 9 月 28 日】

台風 10 号による洪水。浸水家屋 15 棟、農地・宅地の浸水 14ha。

【昭和 60 年 6 月 30 日～7 月 11 日】

梅雨前線により洪水。床下浸水 9 棟、農地・宅地の浸水 16ha。

【平成 16 年 10 月 20 日】

台風 23 号による洪水。大門地点において観測史上最大の $3,396\text{m}^3/\text{s}$ を記録した。高岡市、新湊市（現射水市）で初の避難勧告が発令された。



避難所に集まった住民



堤防護岸欠壊及び根固流出

4-2 治水事業の沿革

明治期以降、庄川の治水事業は、過去3期の大改修工事が行われている。

第1期改修は、明治16年に内務省直轄として改修工事に着手したもので、これは富山県内における最初の内務省直轄土木工事であった。明治33年には内務省告示(M33.3.3)によって、庄川は河川法適用河川に認定された。これが、県内の適用河川認定の始めである。

明治33年4月1日、内務省直轄として大門における計画高水流量を13万立方尺(約3,600m³/s)とする計画を決定し、これに基づき庄川の一部の改良工事に着手し、大正元年に竣功している。この工事によって、川幅の拡張や河川蛇行の整正がなされたほか、それまで河口部で小矢部川と合流していたのを、新放水路開削によって小矢部川と庄川とが分離された。これが第2期の大改修である。

その後、昭和9年7月の大出水を契機に、砺波市庄川町庄における計画高水流量を4,500m³/sとする改修計画が策定され、昭和15年から15ヶ年継続の直轄事業として、砺波市庄川町から河口までの24.2km間で改修事業が計画されたが、第二次世界大戦により改修工事は進捗せず、本格化したのは昭和24年頃からである。その内容は、庄川本川、支川和田川(下流4.6km)の築堤、河道掘削による洪水防御などのほか、和田川合流点の下流への付け替え、常水路の固定による乱流の防止、河川全域にわたる護岸・水制の設置などであった。

現行の工事実施基本計画は、流域の社会的、経済的發展に鑑み、昭和62年に改定(平成6年部分改定)がなされ、基準地点雄神において計画高水流量を5,800m³/sと定め、また、利賀ダム等上流ダム群による調節を700m³/sとして砺波市青島から河口に至る26.1kmの区間において改修を実施し、現在に至っている。

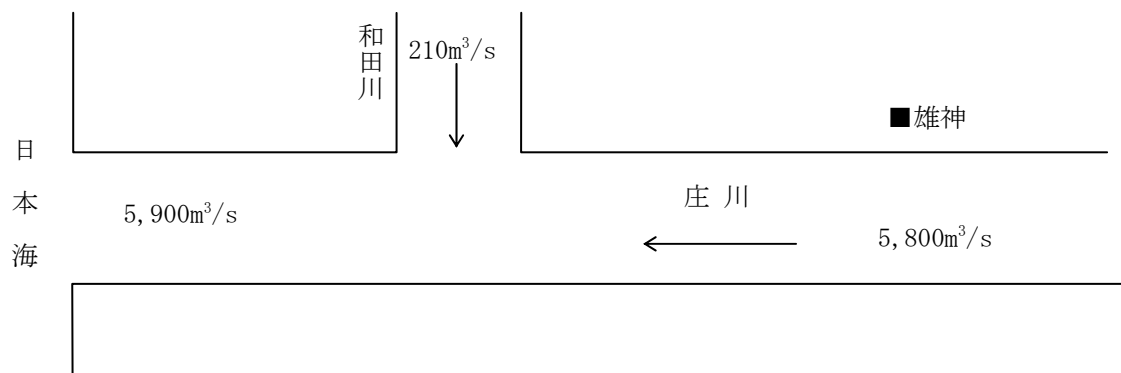


図4-2 庄川計画高水流量図

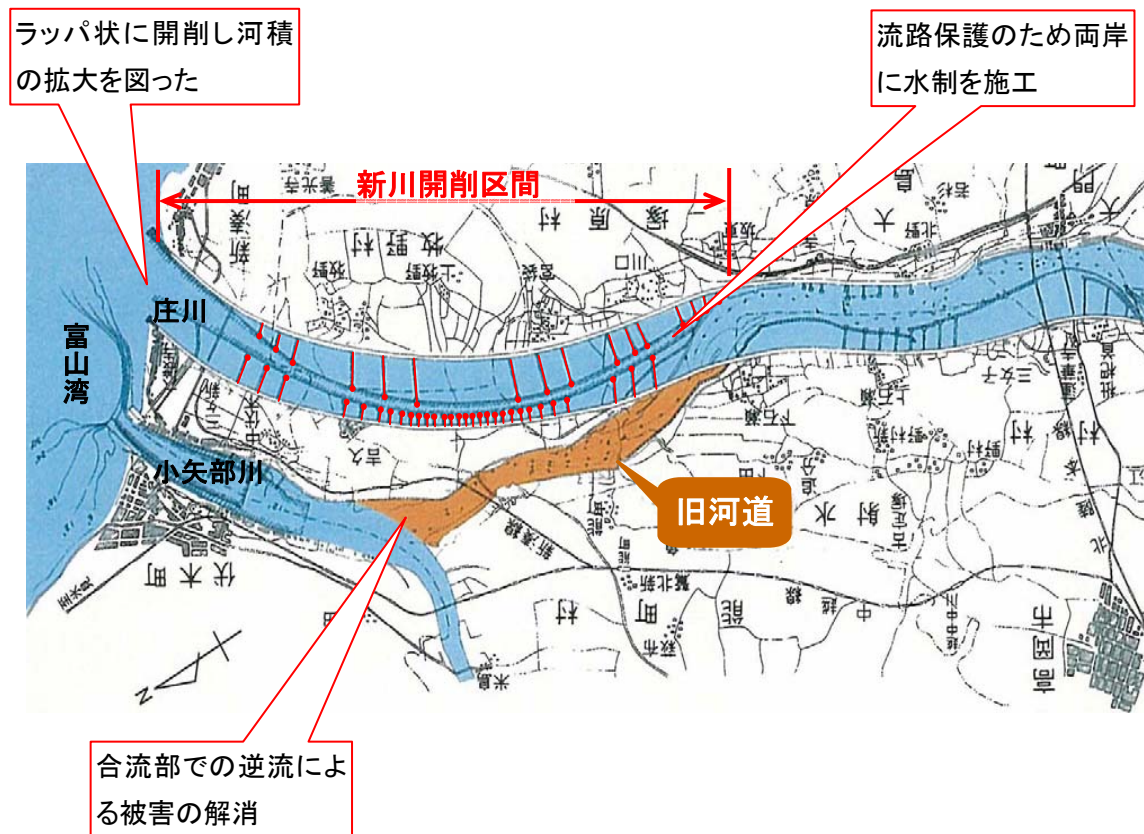


図 4-3 庄川・小矢部川河口分離工事

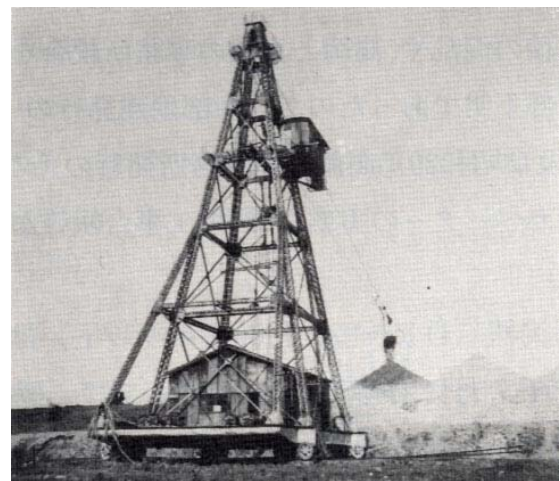
表 4-1 治水工事年表

年月	工事履歴
明暦元年(1655 年)4 月	柳瀬川(旧千保川)の水量が多くなり、高岡瑞龍寺の境内に浸水しそうなため藩は伊藤内膳を遣わせ柳瀬升形工事に着手[三ヶ国絵図覚書より]
寛文 10 年(1670 年)4 月	庄川治水の為、藩は川除奉行 5 人を配置、野尻川・中村川・千保川の三川を締切り松川除の築堤に着手した[越中資料 2 より]
正徳 14 年(1714 年)	松川除築堤工事完成[越中資料 2 より]
天保 13 年(1842 年)	加賀藩は庄川築堤の順序を定めて図面を製作、これに従い工事を実施
明治 16 年(1883 年)	内務省直轄として庄川の改修工事に着手、同時に上流の山地部において砂防工事が実施される[庄川第一期改修工事]
明治 33 年(1900 年)3 月	庄川が県内初の河川法施行河川として認定される[射水郡誌より]
明治 33 年(1900 年)4 月	内務省は計画高水流量を 3,340m ³ /s とする計画を決定、これに基づき左岸は二塚村、右岸は大門町より海に至るまでの区間で改修工事に着手[庄川第二期改修工事][庄川・小矢部川分離工事着手]
大正元年(1912 年)	明治 33 年 4 月開始の改修工事は 13 ヶ年の継続事業となりこの年竣工。この工事により、庄川と合流していた小矢部川は河口が新たに開削され分離される[射水郡誌より]
昭和 15 年(1940 年)4 月	現行計画の基本となる改修計画が立案される。基準地点・庄において計画高水流量 4,500m ³ /s とし、庄川町庄より海までの 24.2km が河川改修工事区域に認定[庄川第三期改修工事]
昭和 18 年(1942 年)	タワーエキスカベーターによる河床掘削開始
昭和 34 年(1959 年)	タワーエキスカベーターによる掘削終了
昭和 41 年(1966 年)4 月	庄川が一級水系に指定され、河口～26.1km 区間が直轄管理区間となる
昭和 41 年(1966 年)6 月	工事実施基本計画が施行される
昭和 62 年(1987 年)	工事実施基本計画改定 計画規模 1/150(基準地点:雄神)基本高水ピーク流量 6,500m ³ /s、 計画高水流量 5,800m ³ /s

参考文献：庄川沿革誌



松 川 除



タワーエキスカベーターによる掘削

第5章 水利用の現状

5-1 水利用の現状

庄川水系の水資源は約 15,600ha におよぶ農地かんがいのための農業用水、高岡市、射水市等の上水道用水及び工業用水等として利用されている。

また、豊富な水量と有利な地形を利用して発電用水に利用されており、28 箇所の発電所の総最大出力は約 100 万 kw におよぶ。庄川水系の水利用の現状は表 5-1 に示す通りである。図 5-1 に庄川の水利用使用模式図を示すが、上流部の発電用水は一旦取水された後、発電所を経て再び河川に戻る。一方、下流部の農業用水は砺波平野をかんがいた後、その多くは再び庄川へは戻らない。

表 5-1 庄川水系の利水現状

種 別	発電用水	農業用水		工業用水	水道用水	その他	計
		許可	慣行				
水利権量	m ³ /s 1,749.55	m ³ /s 83.147	m ³ /s —	m ³ /s 4.4287	m ³ /s 1.72	m ³ /s 0.00521	m ³ /s 1,838.85091
割 合	95.1%	4.52%	—	0.241%	0.094%	0.003%	100 %
件 数	28 件	3 件	77 件	4 件	3 件	1 件	116 件
備 考	最大出力 1,023,440 kw	総かんがい 面積 14,455.7ha	富山県内 40件(817ha) 岐阜県内 37件(338ha)			消雪用水	

※発電は反復を繰り返し、また、農業用水としても利用されているため、水量としては重複する

出典：河川管理統計資料（H18.4.1 現在）

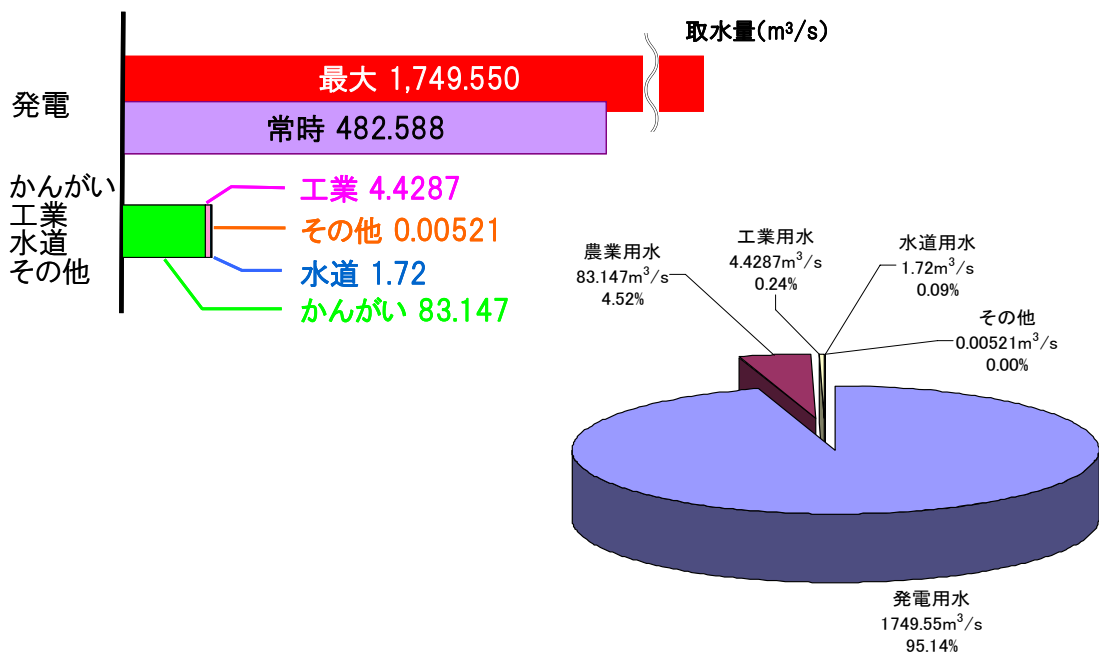


図 5-1 庄川水系の水利用の内訳

5－1－1 農業用水

庄川水系で最大の農業用水は、代かき期最大 70m³/s 余りを取水する庄川合口用水であり、高岡市、砺波市、小矢部市及び南砺市の 12,577ha の水田をかんがいしている。成立は古く、古来、各用水 9ヶ所から取水してきたものを、上流に祖山ダム・小牧ダムの建設計画が持ち上がったのをきっかけに、用水の合口化が具体化し、現在の昭和 14 年に完成した庄川用水合口ダムに取水口を合口した。さらに小牧ダムにも取水口を持つ。発電の成立時の経緯から、取水の安定確保には本川の発電所・ダム群の運用との関係が深い。

庄川水系でこれに次ぐ規模の農業用水は、和田川東部用水・同西部用水であり、庄川右岸の射水平野一体の 1,620ha の水田をかんがいしている。古くは、同地域の水田は湿地であったが、この乾田化事業が昭和 38 年から 51 年まで行われた。取水している河川は支川和田川だが、庄川本川を通して和田川へ導水する県営境川ダムの補給をうけている。

前記 2つの水利使用で、庄川水系の許可を受けている農業用水の 9割以上を占めており、庄川水系からの取水に関わる、砺波・射水平野に存する農地（水田）は、県内有数の穀倉地帯となっている。



庄川用水合口ダム

5-1-2 発電用水

庄川水系における発電水利使用の端緒は、大正6年に当初許可を受けた利賀川から取水している大牧発電所であり、庄川本川においては、大正8年に当初許可を受けた小牧発電所である。小牧発電所の取水施設である小牧ダムは、昭和5年の竣工当時は、東洋一とうたわれたほどで、戦前は随一の規模のダムであった。その後、本川には次々と大規模な発電専用ダムが建設され、完成時は国内最大のロックフィルダムだった御母衣ダムを最上流に、庄川用水合口ダムを最下流にして連なる現在の本川利水ダム群が、昭和30年代後半までにはほぼ構成されるに至った。これらダム・発電所群により生み出される電力は、大部分が関西の大都市圏に送電されている。

このほか、支川にある利水ダム及び境川ダムなどの補助多目的ダムを加えた発電取水が行われているダム総数は、庄川水系全体で現在 17 箇所あり、これに堰堤などから取水するものをあわせて、関係する発電所数は庄川水系全体で 28 箇所になる。これらの総出力（許可）は最大約 102 万 kW にのぼって、庄川水系は原子炉 1 基分に相当する発電が行われており、電力供給に重要な地位を占めている。

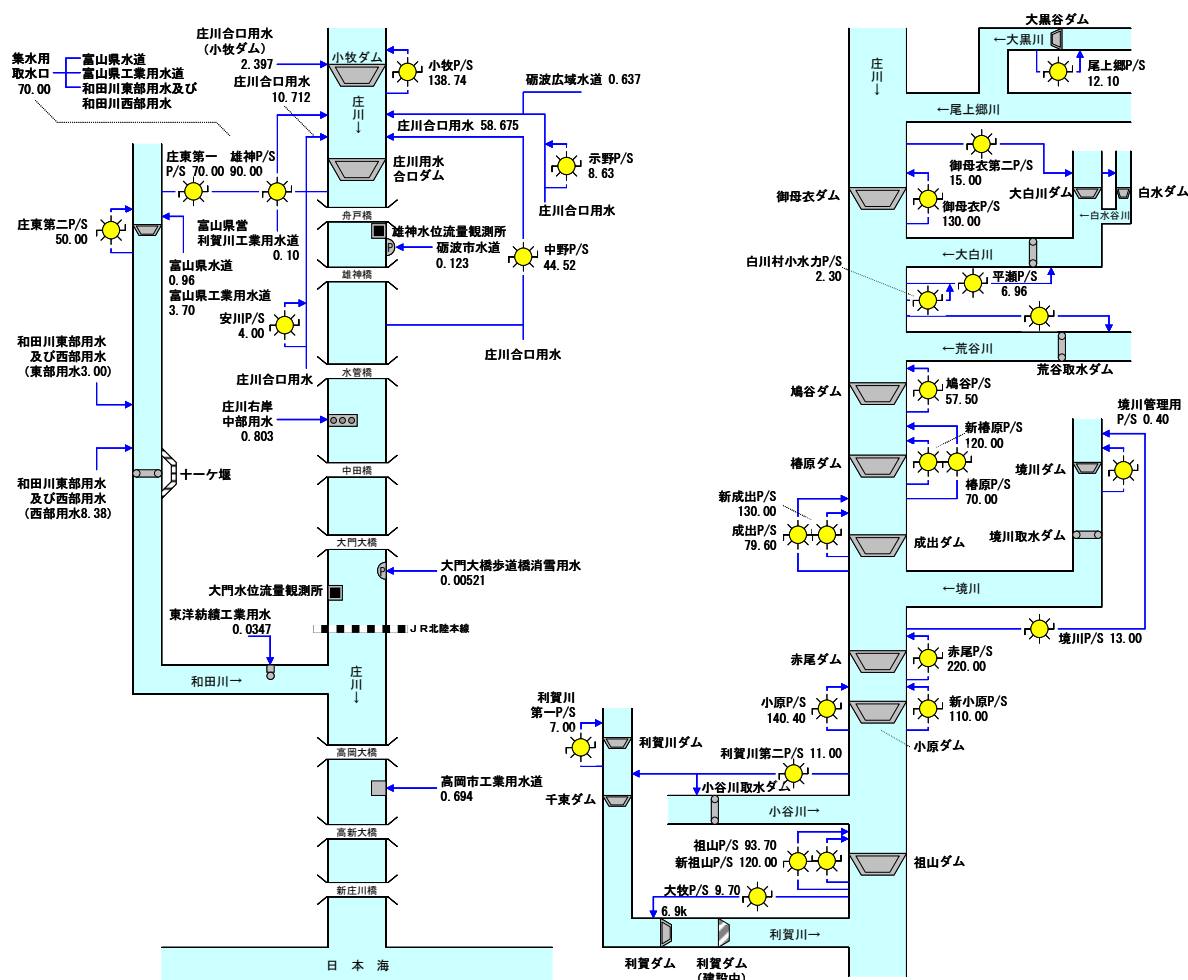
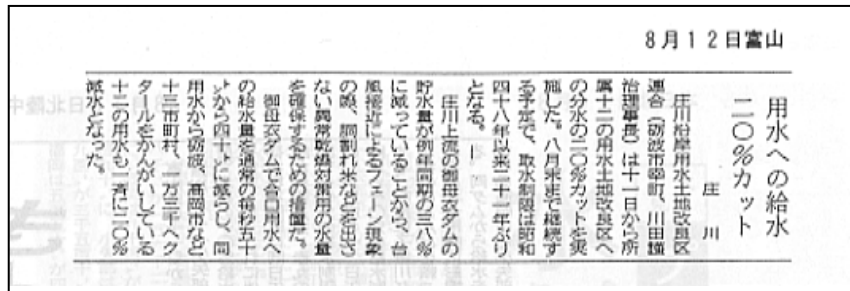


图 5-2 庄川水系利水模式图

5-2 渇水被害の概要

庄川水系において、河川災害のほとんどが洪水被害に関するものであり、近年、渇水に関する直接的な被害の記録はない。至近の異常渇水となった平成6年度渇水時の庄川では、6月から降水量が減少し、7月には10ヶ年平均雨量に対して3割程度となり、上流の発電用ダムの貯水量も低下が進んだため、農業用水の自主的節水等が行われたが、9月末には収束した。

出典：平成6年渇水の記録（概要版）



1994年8月12日富山新聞

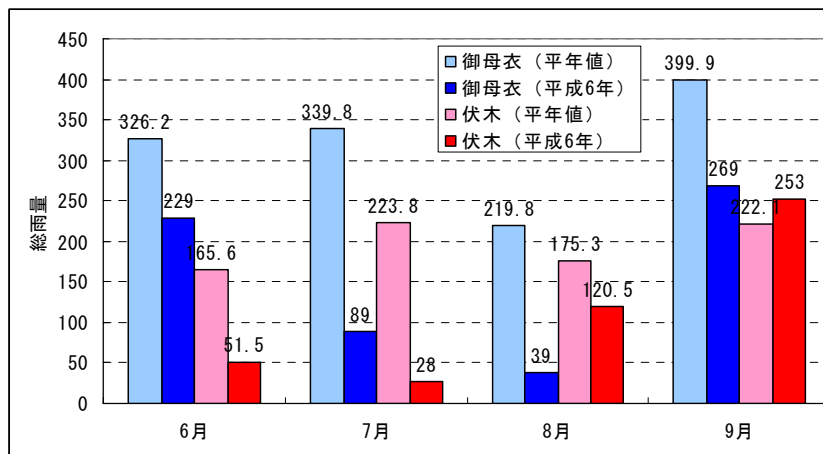


図 5-3 平成6年と平年夏季の月別総雨量の比較



1994年8月11日北日本新聞

第6章 河川の流況と水質

6-1 河川流況

雄神地点における過去12年間（平成5年～平成16年）の平均渇水流量は $6.86\text{m}^3/\text{s}$ であり、平均低水流量は $7.81\text{m}^3/\text{s}$ である。

表 6-1 雄神観測所における流況（1993～2004）

年		流況(m^3/s)							年総量 (10^6m^3)
		最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量	年平均流量	
1993	H5	656.64	11.45	8.71	8.27	3.05	2.74	18.65	584.88
1994	H6	217.36	9.61	9.57	8.11	7.64	7.19	14.49	457.27
1995	H7	414.73	38.41	9.82	8.88	8.53	8.05	31.11	980.77
1996	H8	928.58	9.88	8.52	7.87	7.67	0.00	16.82	531.74
1997	H9	825.18	8.51	8.31	8.05	7.67	3.82	18.62	587.35
1998	H10	999.53	9.01	8.46	7.62	7.10	5.40	22.74	717.00
1999	H11	1,058.36	8.46	7.71	6.97	6.16	5.66	18.16	572.66
2000	H12	160.32	7.91	7.57	7.22	6.27	5.06	10.15	321.07
2001	H13	272.65	6.83	6.43	6.05	5.66	4.65	10.59	333.99
2002	H14	953.18	9.35	8.14	7.41	6.70	5.61	19.79	624.10
2003	H15	524.56	10.49	9.45	8.91	8.14	6.16	20.97	661.47
2004	H16	3,050.06	9.60	8.89	8.33	7.74	5.53	27.45	868.09
最大		3,050.06	38.41	9.82	8.91	8.53	8.05	31.11	980.77
最小		160.32	6.83	6.43	6.05	3.05	0.00	10.15	321.07
平均		838.43	11.63	8.47	7.81	6.86	4.99	19.13	603.37
至近 10年	最大	3,050.06	38.41	9.82	8.91	8.53	8.05	31.11	980.77
	最小	160.32	6.83	6.43	6.05	5.66	0.00	10.15	321.07
	平均	918.72	11.85	8.33	7.73	7.16	4.99	19.64	619.82

注1) 最大流量、最小流量は時刻流量

大門地点における過去 32 年間（昭和 48 年～平成 16 年、欠測年は除く）の平均渇水流量は $4.96\text{m}^3/\text{s}$ であり、平均低水流量は $9.66\text{m}^3/\text{s}$ である。

表 6-2 大門観測所における流況（1973～2004）

年		流況(m^3/s)							年総量 (10^6m^3)
		最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量	年平均流量	
1973	S48	333.05	24.74	9.48	4.10	1.65	0.46	18.98	598.45
1974	S49	885.38	51.18	23.60	12.39	3.26	1.17	52.29	1,649.16
1975	S50	1,288.97	36.95	21.14	11.32	4.63	1.70	35.08	1,106.18
1976	S51	2,645.76	42.03	27.84	16.82	5.74	0.42	51.69	1,634.65
1977	S52	664.28	24.92	10.92	7.20	5.27	3.70	33.59	1,059.39
1978	S53	972.74	37.64	17.40	8.12	7.10	7.10	35.01	1,104.17
1979	S54	1,060.83	30.46	16.10	8.68	7.69	6.76	27.24	858.99
1980	S55	862.58	42.04	23.23	9.98	3.88	1.11	38.86	1,228.73
1981	S56	1,337.77	79.55	22.21	11.06	2.80	0.30	61.30	1,933.33
1982	S57	813.67	21.93	11.00	6.10	2.65	0.04	20.38	642.61
1983	S58	1,673.85	63.02	39.39	16.82	6.54	1.76	58.81	1,854.61
1984	S59	780.18	27.28	12.31	5.14	3.06	0.12	30.57	966.79
1985	S60	1,210.38	51.90	24.79	12.61	5.96	3.35	53.19	1,677.40
1986	S61	374.66	26.63	7.89	4.82	2.97	1.36	25.55	804.17
1987	S62	395.89	14.16	8.05	4.94	2.63	1.37	17.44	548.73
1988	S63	373.66	25.28	14.12	9.74	5.14	3.36	23.56	746.29
1989	H1	1,649.35	43.67	20.62	12.41	7.28	2.77	46.36	1,463.27
1990	H2	1,233.59	31.99	18.64	10.59	6.10	4.80	25.88	816.78
1991	H3	1,188.53	39.91	24.72	13.23	8.05	5.76	49.77	1,570.49
1992	H4	276.61	20.85	10.76	8.38	6.32	0.76	22.49	711.50
1993	H5	726.46	-	-	-	-	4.21	-	-
1994	H6	224.91	23.22	14.20	5.56	3.38	0.48	17.06	539.27
1995	H7	548.81	52.32	22.01	11.13	7.16	4.92	42.75	1,346.59
1996	H8	1,234.06	36.81	20.90	11.05	7.74	4.03	33.69	1,065.67
1997	H9	1,083.86	40.41	21.14	11.29	7.23	4.61	38.01	1,198.68
1998	H10	1,026.91	52.20	35.00	25.30	8.94	4.30	51.13	1,612.44
1999	H11	1,378.10	27.52	14.83	8.84	5.94	3.58	30.36	957.46
2000	H12	-	-	-	-	-	-	-	-
2001	H13	205.67	15.58	10.26	5.96	3.91	1.56	17.35	547.01
2002	H14	1,128.00	40.92	17.35	5.85	3.05	0.00	34.24	1,079.79
2003	H15	553.47	27.14	15.03	7.41	2.50	1.19	28.84	909.50
2004	H16	3,396.45	37.91	11.85	2.90	0.10	0.00	38.35	1,212.72
最大		3,396.45	79.55	39.39	25.30	8.94	7.10	61.30	1,933.33
最小		205.67	14.16	7.89	2.90	0.10	0.00	17.06	539.27
平均		1,017.05	36.34	18.23	9.66	4.96	2.49	35.33	1,114.83
至近 10年	最大	3,396.45	52.32	35.00	25.30	8.94	4.92	51.13	1,612.44
	最小	205.67	15.58	10.26	2.90	0.10	0.00	17.35	547.01
	平均	1,172.81	36.76	18.71	9.97	5.17	2.69	34.97	1,103.32

注 1) 最大、最小は時刻流量

注 2) - は欠測

6-2 河川水質

庄川の水質汚濁に係わる環境基準の類型指定は表 6-3 に示すとおりである。近年の水質の変化をみると、BOD75%値はいずれの地点でも環境基準以下で推移しており、清浄な水質を維持している。

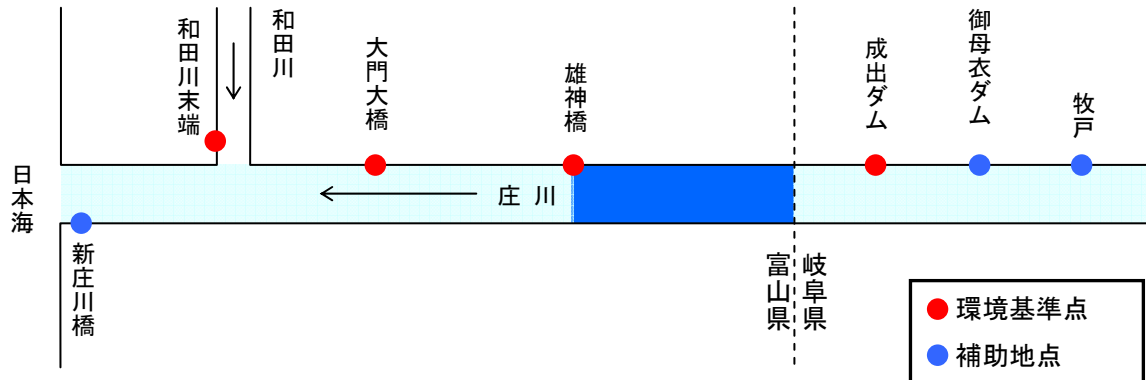
全国一級河川 109 水系中でみた場合は 7 位（H15 年）となっている。

表 6-3 庄川環境基準設定状況

水域の範囲	類型	達成期間	基準地点	指定年月日
庄 川（県境より上流）	A	イ	成出ダム	昭和 52 年 2 月 1 日 岐阜県
〃 県境より雄神橋まで	AA	イ	雄神橋	昭和 48 年 9 月 28 日 富山県
〃 雄神橋より下流	A	イ	大門大橋 （新庄川橋）	〃
和田川（全域）	A	イ	和田川末端	〃

注1) 達成期間：イ：直ちに達成、ロ：5 年以内に達成、ハ：5 年を超える期間で可及的速やかに達成、ニ：段階的に暫定目標を達成しつつ環境基準の可及的速やかな達成に努める

注2) BOD：生物化学的酸素要求量。75%値とは年間 75%はその数値を上回らない値を示す。



水域名	該当類型	環境基準値 BOD (ppm)
庄川(県境より上流)	A	2 以下
庄川(県境より雄神橋まで)	AA	1 以下
庄川(雄神橋より下流)	A	2 以下
和田川(全域)	A	2 以下

図 6-1 環境基準の類型指定状況

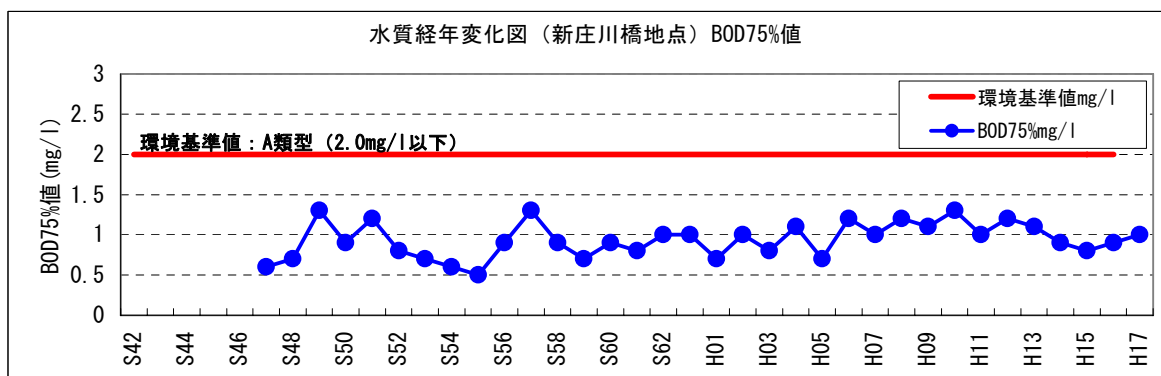
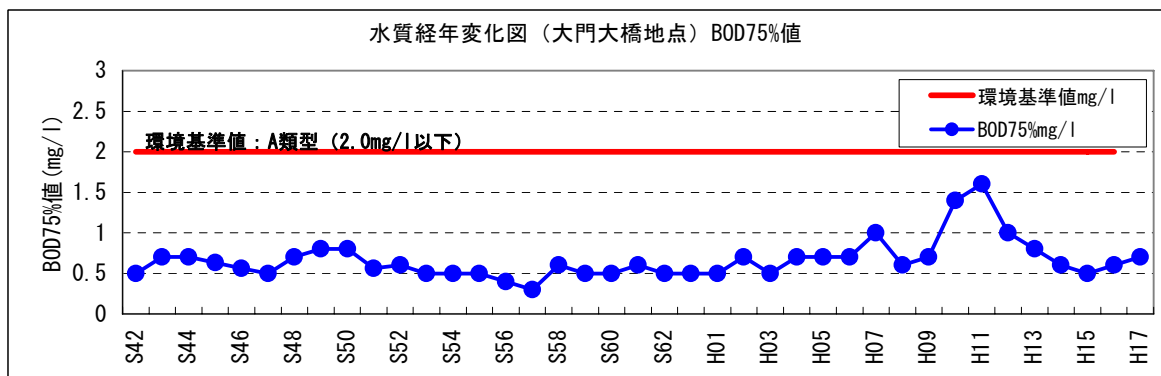
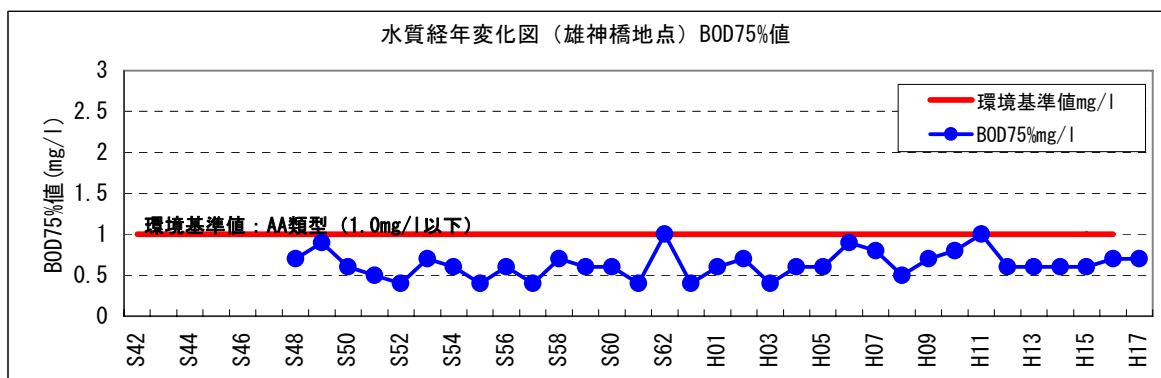
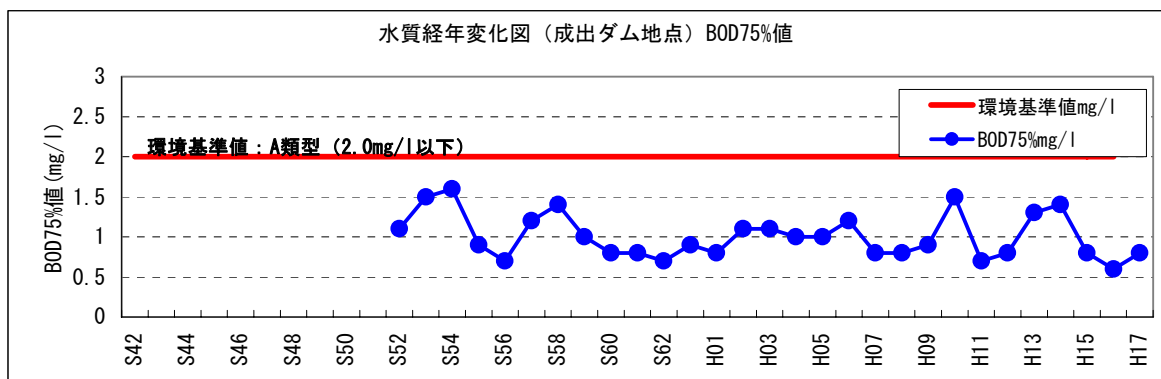


図 6-2 庄川の BOD75%値の経年変化

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川敷の利用状況

庄川には河川利用施設が19ヶ所あり、うち公園・緑地は9ヶ所、運動広場は4ヶ所、有料施設は2ヶ所である。高水敷における河川利用施設の分布は新庄川橋から大門大橋までの区間に多く、また、1.2～4.4kmの右岸では畑地が多くを占める。

図7-1に庄川における平成15年度河川水辺の国勢調査結果より、調査日の利用者数を示す。これをみると庄川における利用者数は夏季に多く、冬季に少なくなる傾向となっている。

また、庄川は古くから地域との結びつきが深く、高水敷ではぼんぼこ祭り（射水市）や花火大会（高岡市・砺波市・砺波市庄川町）、越中だいもん風まつり（射水市大門町）のような各種のイベントが、上流部では厄払鯉の放流（砺波市庄川町舟戸公園）や五箇山溪流釣り大会（南砺市平村）、マスつかみ大会（白川村）も行われている。

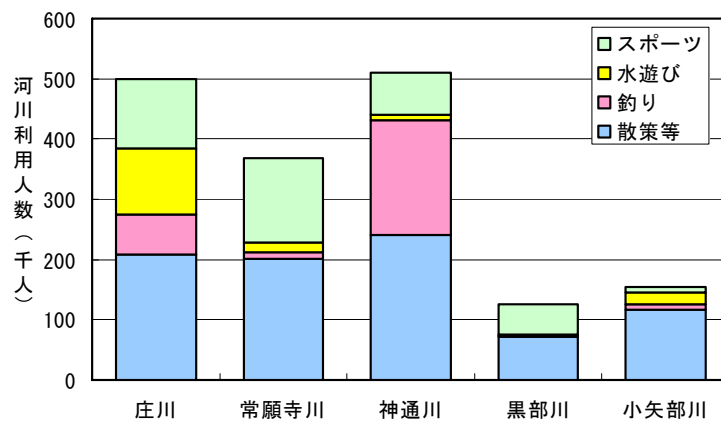


図7-1 富山県内主要5河川の河川利用状況

出典：平成15年度 河川空間利用実態調査 報告書

表 7-1 庄川の河川利用施設 (H15)

種類	No.	距離標	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名	利用料金
公園緑地	1	0.6~1.0	左岸	庄川緑地公園	公園・緑地	60,885	射水市	無料
	2	4.9~6.6	左岸	高岡庄川緑地公園	公園・緑地	132,780	高岡市	無料
	3	5.0~5.6	右岸	大島北野河川公園	公園・緑地	30,108	射水市	無料
	4	13.4~13.6	右岸	中田いきものの里公園	公園・緑地	8,236	高岡市	無料
	5	17.9~18.4	左岸	砺波総合運動公園	公園・緑地	67,010	砺波市	有料
	6	18.4~19.5	左岸	砺波市庄川桜緑地	公園・緑地	35,792	砺波市	無料
	7	24.0~24.2	左岸	弁財天スポーツ公園	公園・緑地	12,715	砺波市	無料
	8	24.3~24.6	左岸	弁財天公園	公園・緑地	37,283	砺波市	無料
	9	24.9~25.4	右岸	庄川町清流の里公園	公園・緑地	39,395	砺波市	無料
運動場	1	0~0.2	左岸	庄川左岸第二緑地	運動場	15,673	射水市	無料
	2	0.6~0.9	右岸	庄川右岸緑地多目的広場 (万葉パークゴルフ場)	運動場	17,062	射水市	無料
	3	2.2~2.4	右岸	運動広場	運動場	8,725	高岡市	無料
	4	2.9~3.0	右岸	宮袋運動広場	運動場	8,800	射水市	無料
ゴルフ場	1	25.2~25.4	右岸	みどりの広場	ゴルフ場		庄川パットゴルフ場	有料
遊歩道・ サイクリングロード	1	7.0~13.5	右岸	大門・庄川・小矢部自転車道	自転車道	36,300	富山県	無料
	2	13.6~25.6	左岸	大門・庄川・小矢部自転車道	自転車道	27,361	富山県	無料
その他	1	4.7~4.8	左岸	ラジコンヘリコプター発着場	その他	2,500	高岡市	無料
	2	9.2~9.6	右岸	庄川清水公園(駐車場)	その他	1,613	射水市	無料
	3	19.0	左岸	模型飛行機専用飛行場	その他	3,100	富山県模型航空協会	無料

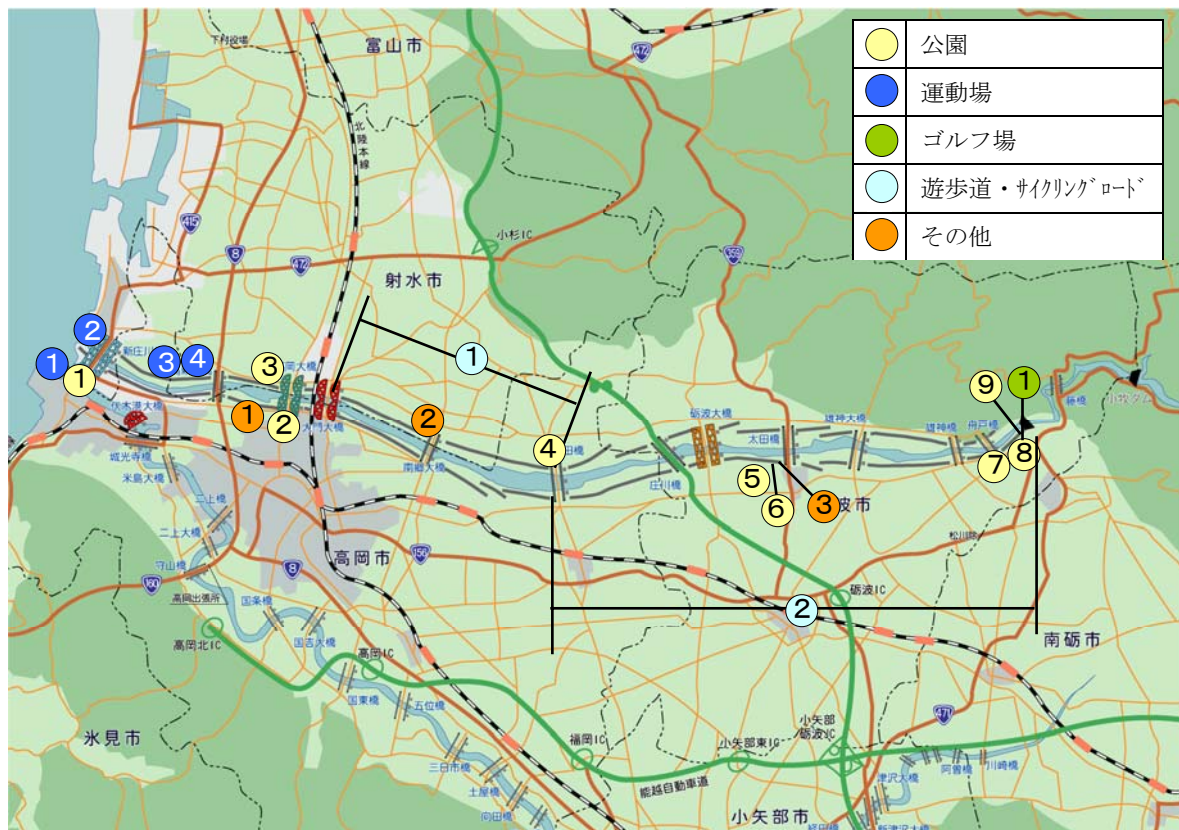


図 7-2 庄川河川空間利用施設位置図



庄川右岸緑地多目的広場

庄川河口近くで、マリンスポーツを楽しんでいる人が多く見られる。パークゴルフ場が整備されており、生涯スポーツの場所として賑わっている。



高岡庄川緑地公園

高岡市街地に近く、サッカー広場、野球場、テニスコート、ゲートボール場など、運動施設が充実しており、市民の憩い・スポーツの場として利用されている。



大島北野河川公園

平成 11 年度に完成した比較的新しい河川公園であり、親水広場、バーベキュー場、多目的広場、トイレ、駐車場、野鳥観察小屋、その他遊具等、設備が充実し、かつ、管理人が常駐している点が特徴である。



中田いきものの里公園

公園周辺は庄川の清流環境によって育まれた地域特有の「あしつき」や「トミヨ」等が生息生育している。この公園は庄川の伏流水を利用し、これらの生物の保全・育成をねらいとして整備された。



砺波総合運動公園

市民の健康増進、コミュニティ活動の場として、ラグビー、サッカーやソフトボール競技等、幅広く利用できるスポーツゾーンである。施設の周辺には芝生広場や休憩施設もあり、スポーツやレクリエーションを楽しむことができる。



弁財天公園

庄川流域を洪水から守る水神として、古くから流域の人々に崇敬されてきた弁財天を中心とした河川公園。弁財天は周囲の大株ややぶ椿とともに庄川町指定文化財となっている。

7-2 河川の利用状況

7-2-1 河川空間の利用状況

表 7-3 に利用形態、利用場所別の利用者数の内訳を示すが、高水敷における散策等の利用が多く、スポーツ、釣り、水遊びなどがこれに続く。特に庄川ではアユが放流されていることもあり、シーズン中は釣り客で賑わっている。

表 7-3 庄川における河川利用状況（直轄管内）

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	223	116		
	釣 り	61	109		
	水遊び	34	67		
	散策等	224	208		
	合 計	542	500		
利用場所別	水 面	51	24		
	水 際	44	152		
	高水敷	411	304		
	堤 防	36	20		
	合 計	542	500		



釣り利用（雄神橋）



スポーツ利用（砺波市総合運動公園）

7-2-2 漁 業

庄川の河川漁業はかなり古くから盛んであったといわれている。平安時代、越中の産物として 砺波市庄川町のサケ・アユが上納されていたことも記録に残されている。藩政期にもサケ・アユなどが税として上納されていたといわれ、海の「ブリ・タイ・タラ」と共に川の「サケ・マス・アユ」は古くから特産物であった。特にサケ・マスは塩引、アユは薫製として製品になり、砺波市庄川町・射水市大門町の名産品となった。

昭和 30 年には、内水面の漁業権が設定され、魚類の放流が行われている。

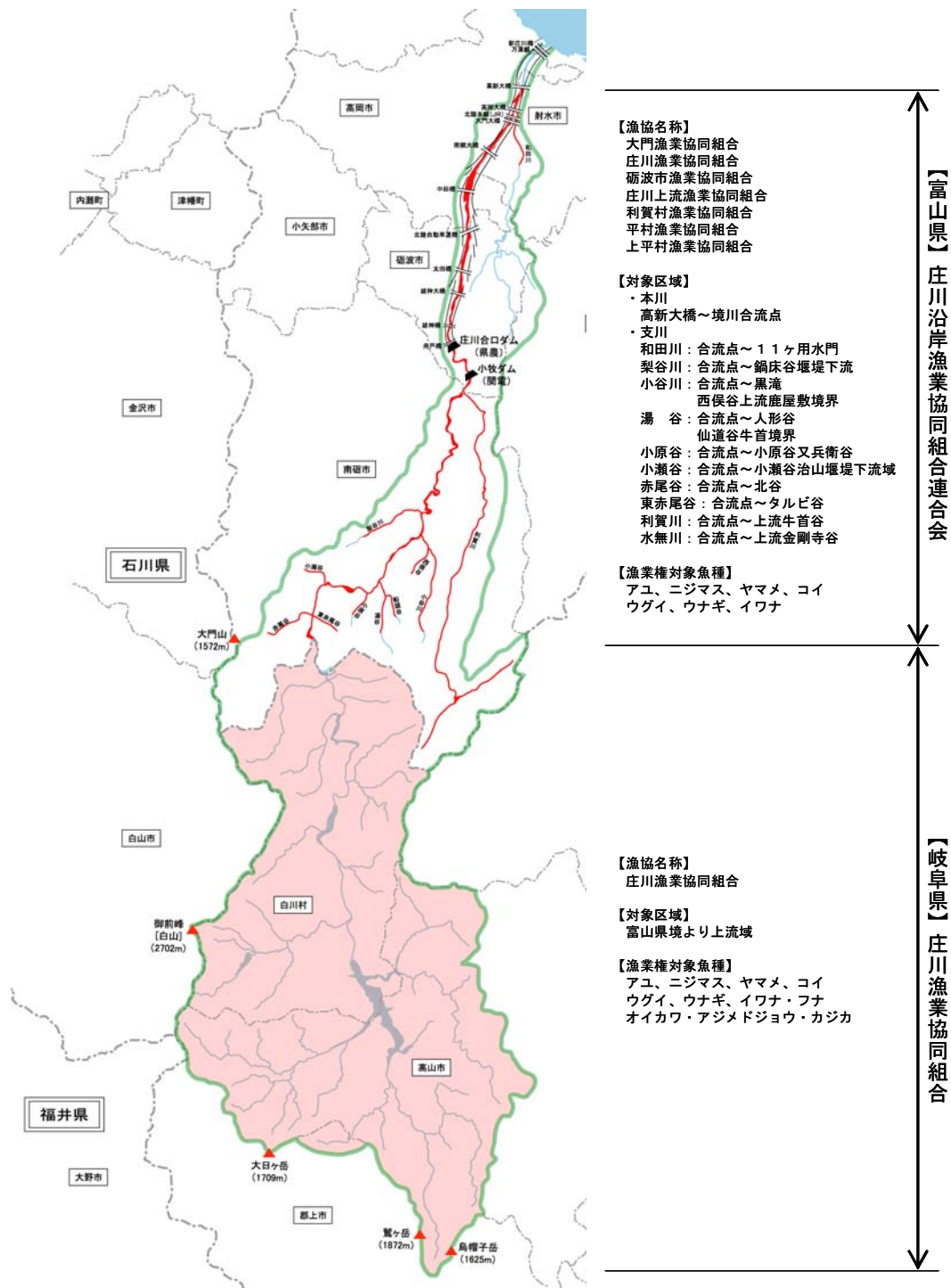


図 7-4 庄川における漁業権設定範囲

表 7-2 庄川の漁獲量

対象魚種名	漁獲量（t／年）								
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
サケ類	165	97	71	96	112	100	67	107	78
ニジマス	4	4	2	2	2	3	2	2	3
ヤマメ	4	4	4	4	3	3	3	3	4
イワナ	2	2	2	2	2	2	2	2	2
アユ	38	40	40	40	37	37	35	30	24
コイ	4	4	5	4	4	4	4	4	5
ウグイ	12	10	8	8	7	6	6	6	5
ウナギ	1	1	1	1	1	0	1	0	1

出典：富山県漁業の動き

第 8 章 河道特性

8-1 河道の特性

庄川は、岐阜県飛騨と美濃の境をなす烏帽子岳（標高 1,625m）に源を発し、東方を飛騨山地、西方を両白山地^{りょうはく}によって囲まれた山間盆地を北流して富山県に入る。

岐阜県内のほぼ中間にわが国有数のロックフィルダムである御母衣ダムが建設されて容量約 4 億 m³ の貯水池を擁している。

流域形状は南北に細長い形であるため、合流する支川は流域の短いものが多い。

富山県に入り、そのなかばを過ぎると、飛騨帯の新第三紀花崗岩、安山岩および火山砕屑岩地帯を流下することになり、さらに下流側は完新世の流紋岩と火山砕屑岩地帯を貫流して狭窄部を抜け出る。しかしこれらの山地流域はその地質的性格から荒廃が目立ち、特に西側の白山側斜面が甚だしい。

また、山地流域の林相は全般的に不良であり、しかも森林が山地面積の 60% にも満たず、残りが原野等で占められている。

このため多量の崩壊土砂が発生し、流水によって下流に押し出されて現在の砺波平野、射水平野が河谷を抜け出たあとに形成され発達した。

往古はこの庄川扇状地形成作用のため、庄川の流路は定まらず、また隣接する小矢部川流路を西方に押しやり、宝達丘陵にさえぎられて北東に向きを転じつつ小矢部川と合流して富山湾に注いでいた。

この扇状地端部で標高 30m 以下の地域は扇端砂州地帯（デルタ）となっているが、藩政当時から今日に至る庄川治水事業によって、ようやく現在の河道が定まり、また小矢部川については庄川扇状地形成作用によって現位置があり、この流水によって庄川扇端デルタが侵食を受けて段丘状の浅い谷が形成されている。そして庄川左岸扇状地の用水の落ち水や地下水がこの小矢部川に集まり、富山湾に注いでいる。

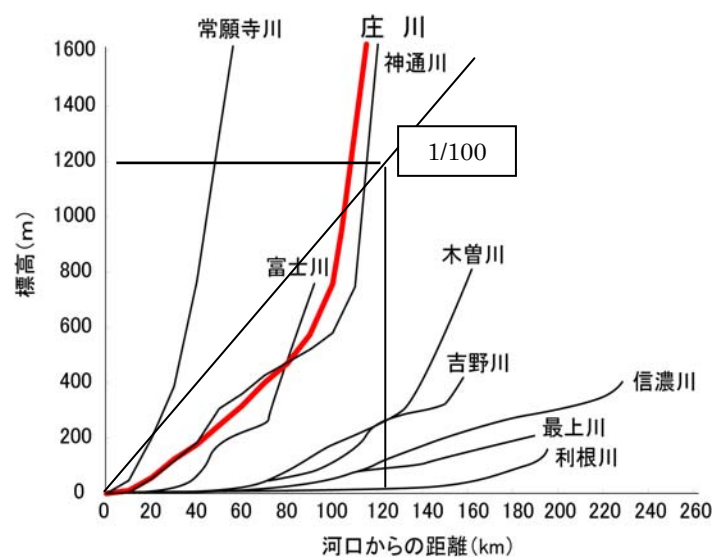
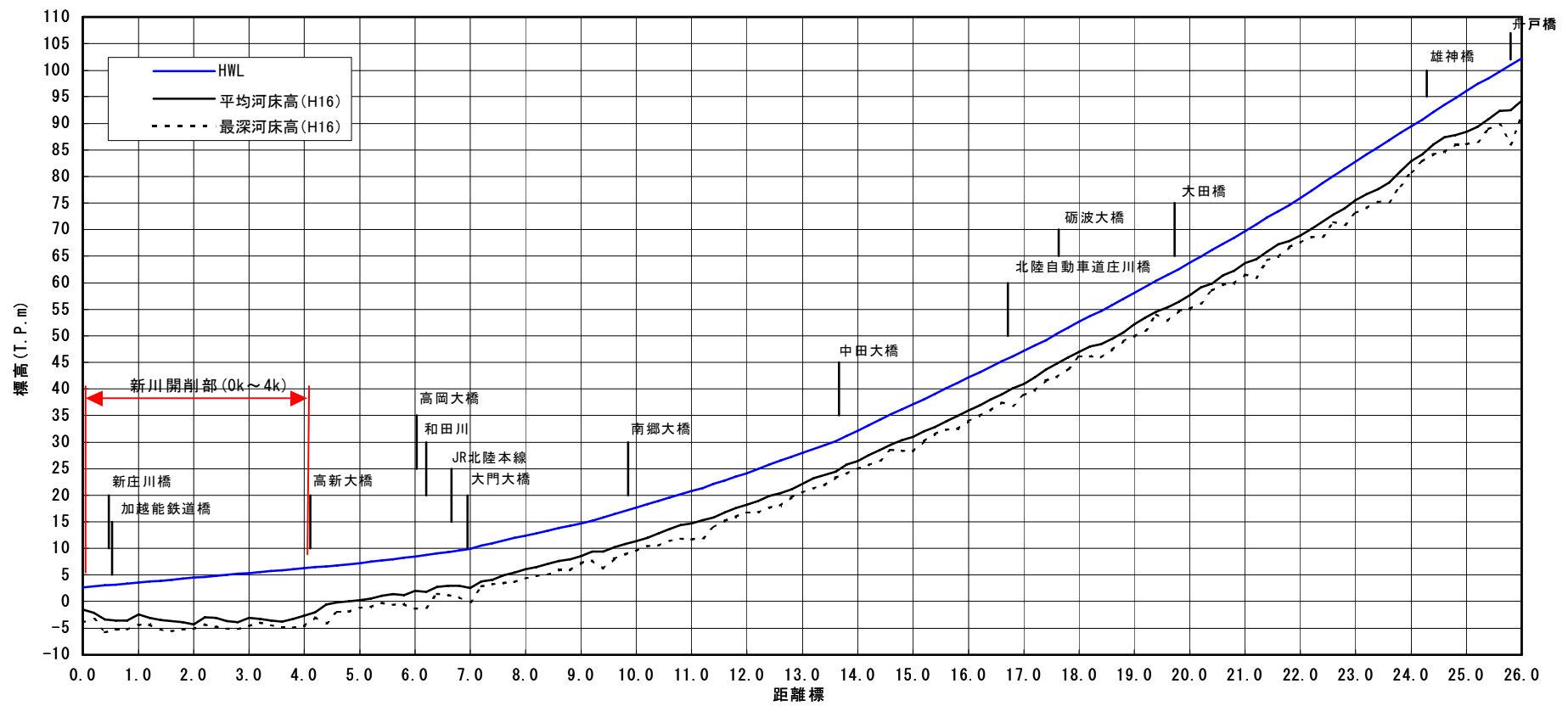


図 8-1 他河川との比較



距離標	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0
計画高水位 (T. P. m)	2.59	3.52	4.44	5.34	6.20	7.15	8.46	9.84	12.35	14.63	17.67	20.74	24.11	27.97	32.13	37.05	42.12	47.13	52.60	58.04	63.74	69.68	75.94	82.78	89.39	96.09	102.21
平均河床高 (T. P. m)	-1.55	-2.51	-4.27	-3.07	-2.65	0.28	2.06	2.53	6.06	8.59	11.36	14.73	18.22	22.17	26.41	30.99	35.99	40.91	46.97	52.18	57.68	63.69	68.90	75.54	82.89	88.40	94.21
最深河床高 (T. P. m)	-3.90	-4.40	-5.20	-4.60	-4.60	-1.18	-1.36	-0.06	4.34	7.23	9.52	11.66	16.84	20.57	25.02	28.31	33.93	38.80	46.12	49.88	55.09	61.59	67.61	73.15	80.83	86.08	91.45

図 8-2 庄川現況河道縦断面図

9-1-1 管理区間

直轄管理区間は庄川用水合口ダムから河口までの 26.1km 及び利賀ダム区間 6.9km の計 33.0km である。

管理者	河 川 名 (区間)	管理区間延長 (km)
国土交通省	庄川(利賀ダム区間含む)	33.0km
富 山 県	支川含む指定区間合計	134.1km
岐 阜 県	支川含む指定区間合計	198.7km
合 計		365.8km

出典：富山県河川調書・岐阜県河川調書

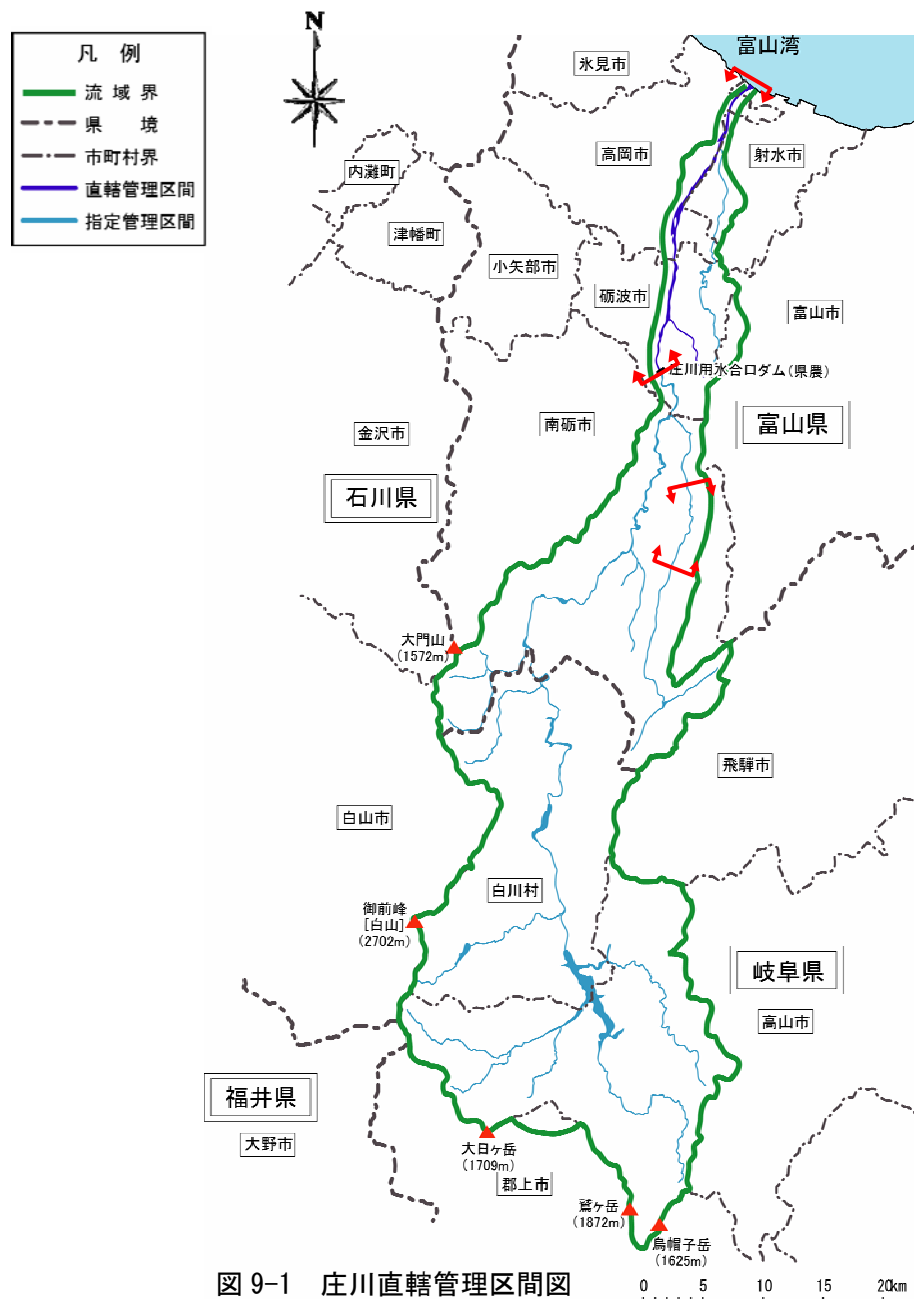


図 9-1 庄川直轄管理区間図

9-1-2 河川区域

直轄管理区間の河川区域面積は以下のようになっている。低水路及び堤防敷は全て国有地であり、高水敷は約3.8%が民有地となっている。

表 9-2 庄川直轄管理区間の管理区域面積

【単位：千m²】

	低水路(1号地)			堤防敷(2号地)			高水敷(3号地)			計		
	官有地	民有地	不 明	官有地	民有地	不 明	官有地	民有地	不 明	官有地	民有地	不 明
直轄管理 区間	8,598	0	51	2,096	0	0	2,000	80	26	12,694	80	77
計	8,649			2,096			2,106			12,851		

出典：河川管理統計資料（H17.4.1 現在）

9-2 河川管理施設

庄川の河川管理施設は、堤防、護岸等の他、樋門・樋管5箇所、揚水機場1箇所である。これらの河川管理施設の状況を把握し、適切な処置を講じるため、河川の巡視・点検を行っている。

また、許可工作物は、樋管・樋門27箇所、橋梁22箇所、揚水機場1箇所の計50施設にのぼる（平成18年3月現在）。各構造物については、河川管理施設同様の維持管理水準を確保するよう各施設管理者と協議し、適正な維持管理を行うよう指導している。

表 9-3 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理 区域延長 (km)	施行令2条7号 指 定 区 間 (km)	堤防延長 (km)				合計
		完成	暫定	未施工 (暫々定)	不必要 区 間	
26.1	0	36.4	17.4	1.2	0.3	55.3
構成比(%)		66.2	31.6	2.2	0.0	100.0

出典：富山河川国道事務所資料（平成18年3月現在）

表 9-4 河川工作物等一覧表（直轄管理区間）

種 別	個 数	計
堰	0(0)	0(0)
床 固	0(0)	0(0)
樋管・樋門	32(27)	32(27)
橋 梁	22(22)	22(22)
揚・排 水 機 場	2(1)	2(1)

＊（ ）は許可工作物数を示す

9-3 水防体制

9-3-1 河川情報の概要

庄川では、流域に雨量観測所8箇所、水位・流量観測所2箇所を設置し、河川無線等により迅速に情報収集を行うとともに、これらのデータを使って河川水位予測等を行い、水防活動に活用している。これらの情報を重要な防災情報として、富山県等に提供している。

河川情報は、CATVネットワークを利用した光ケーブルネットにより富山県内市町村へリアルタイムで情報を伝達する他、ホームページ『防災ネットとやま』により河川の状況を公開し、いち早く地域住民に提供することで、洪水からの被害軽減や水防に対する意識を向上させることに役立っている。



図 9-2 庄川流域の雨量・水位観測所位置図

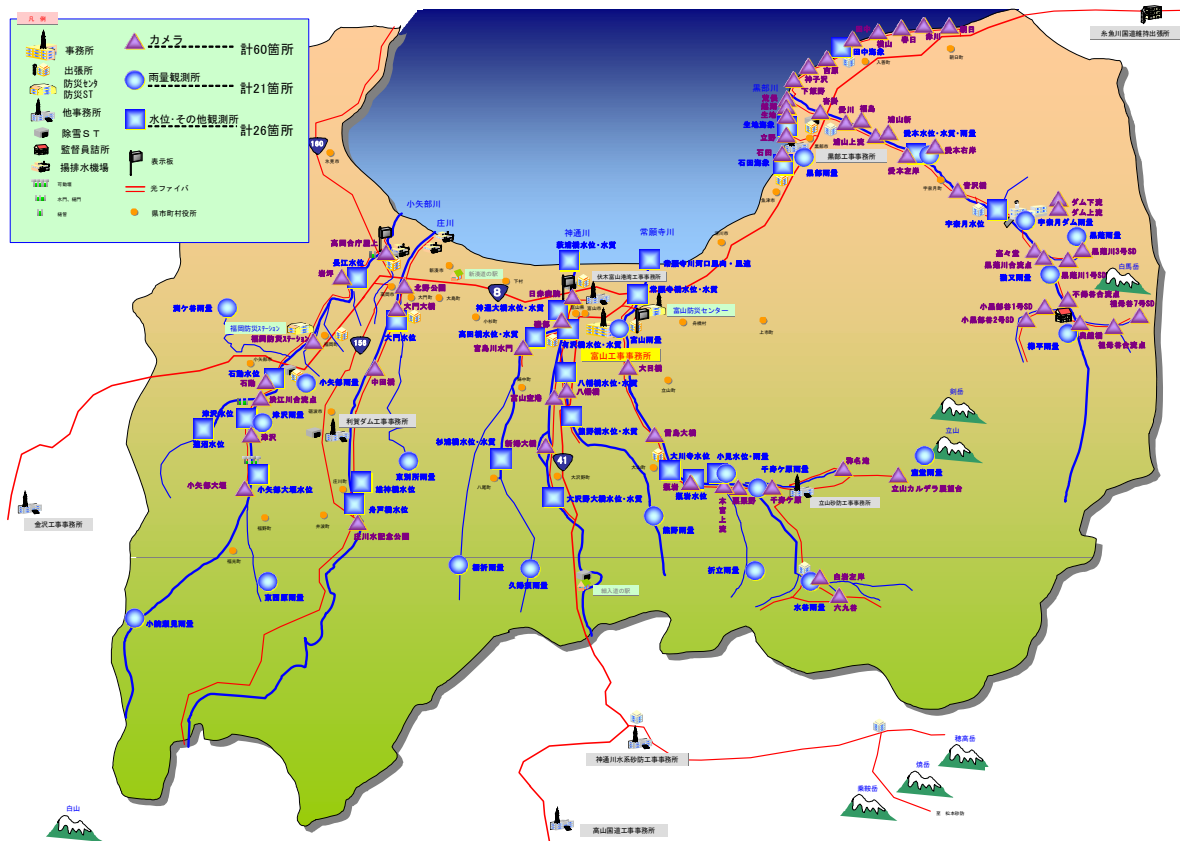


図 9-3 富山県内光ケーブルネットワーク図

出典：富山河川国道事務所

9-3-2 水防警報の概要

庄川には水防警報対象水位観測所が1箇所（大門）設置されている。

洪水により災害が起こる恐れがある場合に、水防警報対象水位観測所の水位をもとに、水防警報を通知し、水防団や近隣市町の関係機関と協働して洪水水害の軽減に努めるよう、体制を組んでいる。

9-3-3 洪水予報指定河川の指定

庄川は、水防法第10条及び気象業務法第14条に基づき、平成13年に「洪水予報指定河川」に指定されており、富山気象台と共同で洪水予報、洪水警報の発表を行い、周辺住民への適切な情報提供を実施している。

表 9-5 洪水予報及び水防警報に関する基準地点

観測所	地 先 名	位置	水防団 待機水位 (m)	はん濫 注意水位 (m)	はん濫 危険水位 (m)	計画高水位 (m)
大 門	射水市大門西町	右岸 6.8k +180m	5.00	5.50	7.32	9.81

9-4 危機管理の取り組み

9-4-1 水防関係団体との連携

富山河川国道事務所では庄川をはじめとする管内4河川において、洪水からの被害の防止または軽減を図るため、国及び地方公共団体の関係機関が相互に連携し、情報伝達訓練、水防関係団体との水防訓練・重要水防箇所の巡視・点検、水防資材の備蓄を行っている。

表 9-6 富山河川国道事務所水防連絡会の構成機関

機 関 名	
国土交通省	富山河川国道事務所
富山県	土木部河川課、農林水産部耕地課、企業局電気課、富山土木センター、富山土木センター立山土木事務所、高岡土木センター、高岡土木センター小矢部土木事務所、砺波土木センター
市町村	富山市、高岡市
水害予防組合等	庄川左岸水害予防組合、庄川右岸水害予防組合、常願寺川右岸水防市町村組合、小矢部川中流水害予防組合
民間	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社、北陸電力株式会社土木部、関西電力株式会社北陸支社

9-4-2 庄川渇水情報連絡会との連携

庄川水系では渇水時における水利使用者間の水利調整及び水の利用を円滑に行うため、庄川水系に水利権を有する者で、庄川渇水情報連絡会を平成6年12月より設置している。

表 9-7 庄川渇水情報連絡会の構成機関

機 関 名	
国土交通省	富山河川国道事務所
農林水産省	北陸農政局
富山県	河川課、農村環境課、環境衛生課、企業局土木水道課、企業局電気課
市町村	砺波市、高岡市
民間	砺波広域水道企業団、関西電力株式会社北陸支社

9-4-3 水質事故防止の実施

(2) 富山一級水系水質汚濁対策連絡協議会

庄川をはじめとする富山県を流れる一級水系5河川において、河川水質汚濁対策に関する連絡調整を図るため、水質汚濁対策連絡協議会を設置している。

表 9-8 富山県一級水系水質汚濁対策連絡協議会の構成機関

機 関 名	
国土交通省	北陸地方整備局富山河川国道事務所、北陸地方整備局黒部河川事務所、北陸地方整備局立山砂防事務所、北陸地方整備局利賀ダム工事事務所、北陸地方整備局神通川水系砂防事務所 海上保安庁伏木海上保安部
経済産業省	中部経済産業局資源エネルギー環境部 中部近畿産業保安監督部
富山県	土木部、生活環境文化部
岐阜県	県土整備部、環境生活部
市町村	富山市、高岡市、黒部市、小矢部市、砺波市、南砺市、射水市、高山市、飛騨市、立山町、入善町、朝日町、白川村

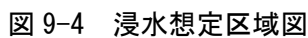
(2) 水質事故の実態

庄川水系の近年10ヶ年における水質事故の発生状況は表 9-9 のとおりである。

表 9-9 庄川における水質事故の発生状況

年	水質事故の種類				計
	油流出	化学物質	油類・化学物質 以外（濁水等）	魚類の へい死	
平成8年	1	0	0	0	1
平成9年	0	0	0	0	0
平成10年	1	0	0	3	4
平成11年	1	0	0	1	2
平成12年	0	0	0	0	0
平成13年	2	0	0	0	2
平成14年	2	0	0	1	3
平成15年	0	0	0	0	0
平成16年	3	0	0	1	4
平成17年	5	0	0	0	5
計	15	0	0	6	21

庄川では、洪水時の被害を最小限に抑え、また、危機管理意識の啓発を図るため、平成 14 年 9 月に浸水想定区域図を公表しており、流域関係市町村の地域防災計画の策定及び洪水ハザードマップの作成を支援している。



9-4-5 洪水ハザードマップの作成

洪水ハザードマップは、避難経路や避難場所、最寄りの病院や洪水情報の伝達経路など災害発生時に冷静な避難行動をとるうえでの情報を具体的に表示したものである。

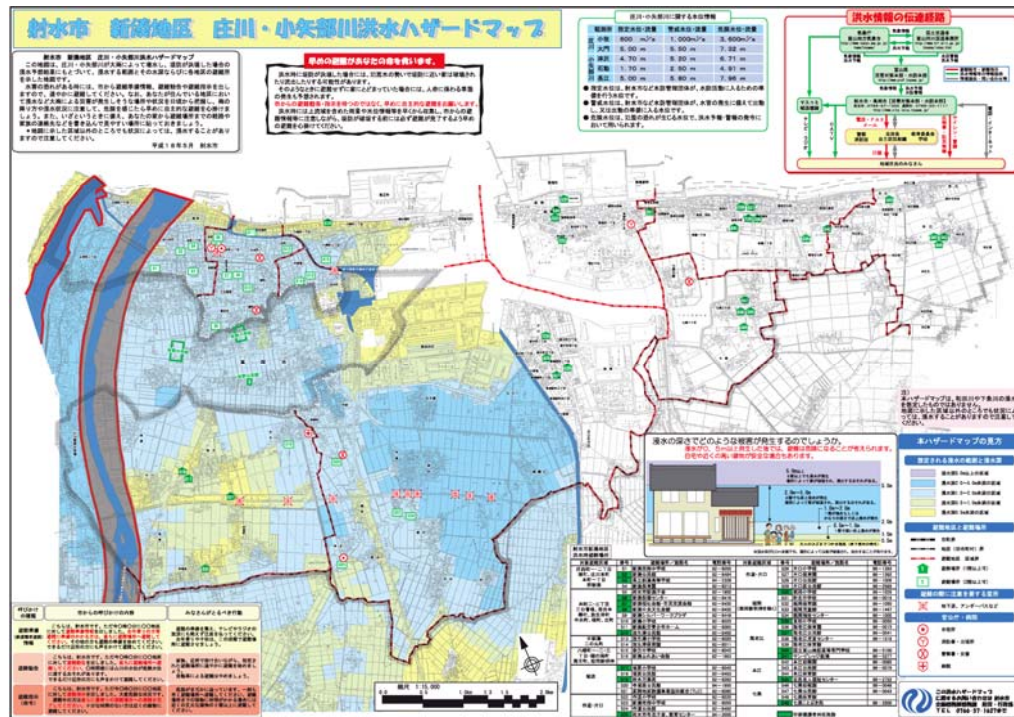


図 9-5 射水市洪水ハザードマップ

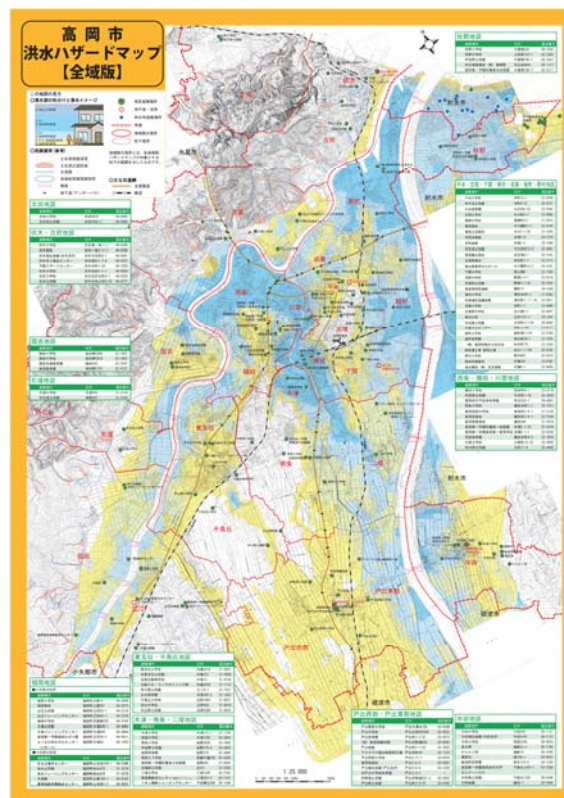


図 9-6 高岡市洪水ハザードマップ

9-5 地域との連携

庄川では、沿川市町村の小中学校の協力や総合学習の一環として、簡易水質調査（水生生物調査）を実施することで水質を評価することともに、参加者自らが庄川にふれ、状況を知ることにより水環境の保全に関する関心が高まり、河川愛護の意識向上につながっている。



水生生物調査
大門小学校 雄神橋



総合学習支援水生生物調査
二塚小学校 南郷大橋上流